

高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進する
アドバンスト教育研究プログラムの共同開発

成果報告書

[2024年度]

2026年4月

北海道大学 東北大学 千葉大学 東京大学 富山大学
金沢大学 静岡県立大学 名古屋市立大学
岐阜薬科大学 京都大学 大阪大学 和歌山県立医科大学
岡山大学 広島大学 山陽小野田市立山口東京理科大学
徳島大学 九州大学 長崎大学 熊本大学

高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進する アドバンスト教育研究プログラムの共同開発

I はじめに

1. 国公立19大学による「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」の実施

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業は、第2期中期目標期間中に実施した国立14大学による先導的薬剤師養成事業を基盤とするものであり、第3期中期目標期間からは、さらに薬学部、大学院薬学研究科を持つ全国公立19大学の参画により発展的かつ実践的なアドバンスト教育研究プログラムの共同開発を行い、国公立大学を拠点とした普及と定着化を図ってきた。また、第3期中期目標期間中には主幹校である大阪大学において基幹経費化され、2024年（令和6年）度以降も継続することとなった。これによって、現在及び未来の医療のダイナミックな変化に的確に対応して指導的な立場で活躍できる「高度先導的薬剤師」の養成とそのグローバルな活躍を推進する。

具体的には、本事業では主に、

1. 高い倫理観・使命感と卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導する薬剤師の養成を目指す「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」
2. 高い専門性に加え柔軟な俯瞰力、超域的な創造力を修得し、世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す「国際医療薬学教育研究推進プログラム」
3. グローバル医療人としての高度汎用力を修得し、国際的な保健公衆衛生を主導する薬剤師の養成を目指す「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」
4. 国公立大学を拠点とした薬学人材養成教育の高度化・実質化による地域医療の充実・発展への貢献を図る「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」
5. 大学と地域の有機的連携による福祉保健衛生を主導し地域医療の高度化を推進する薬剤師の養成を目指す「地域医療教育研究推進プログラム」

について、共同開発と実施、普及・定着化を推進する。

大阪大学は、第4期中期目標期間に加え、さらにその先も見据えた中長期的な経営ビジョンであるOUマスタープラン2027の「教育で貫徹する方針」として「卓越した教育機関として、社会からの負託に応えるべく、大阪大学の学部生・大学院生が、社会課題に対応する能力を身に付け、どのような社会に変容しようとも個々の自己実現を図り、生き生きと力強く活躍し、新たな社会を創造できる知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境を整備すること」を掲げている。本事業は、こういった目標への到達に向けた教育研究における取組を具現化するものであ

り、国公立大学が担うべき薬学領域、医療における社会的な責任を自覚し、社会とともに歩み、活力ある社会を創出するためのイノベーションを担う人材の育成や新たな価値の創成を通して、グローバル社会が求める負託に応えていくものと言える。

本事業における「高度先導的薬剤師」の養成とそのグローバルな活躍の推進によって、それぞれ国公立大学を拠点とする全国8地区における地域医療の充実・高度化による健康長寿社会の実現、さらには我が国にとどまらず国際的な先進医療の推進や保健衛生・健康環境の維持・充実に大きく貢献できることを期待したい。

2. 本事業について

(1) 第2期中期目標期間における文部科学省特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業の実施

国立大学法人14大学は、第2期中期目標期間（2010年（平成22年）度～2015年（平成27年）度）において、文部科学省特別経費事業として先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」を実施した（図1）。

以下、文部科学省特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」成果報告書（<http://www0.phs.osaka-u.ac.jp/koudosendouteki/>）より抜粋・一部改変

薬学部6年制教育は、近年の医療技術の高度化や医薬分業の進展などに対応できる高い資質を備えた薬剤師の養成を目的として、平成18年度から開始された。全国の薬学部を持つ大学や薬科大学では、医療薬学を中心とした専門教育や病院や薬局での実務実習の充実を図るとともに、これらを有機的に組み合わせた教育課程を編成することによって、医療現場で即戦力として活躍できる薬剤師の養成を目指している。しかし、近年、新興・再興感染症の流行、有害物質による食品や環境の汚染による健康被害の脅威が増大し、また最先端医療を支える次世代の創薬が待望されるなか、薬剤師が果たすべき役割はさらに広がり、同時により高度な職能が求められるようになってきた。こうした薬剤師に対する社会的な要請の拡大に的確に応えるためには、医療現場での活躍に留まらず、食や環境の安全・安心の確保、感染症の的確な予防、さらには創薬の推進まで、国民の健康の維持・増進にかかわる幅広い職域で、指導的な立場で活躍できる薬剤師の養成が不可欠である。

そこで、国立大学法人14大学は、2010年（平成22年）度から2015年（平成27年）度まで、文部科学省の特別経費による支援を受けて、「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業を実施することにより、このような指導的な立場で活躍できる薬剤師、いわゆる先導的な薬剤師の養成に向けて、薬学部における高学年教育の高度化・実質化を図り、さらには各大学の特徴を活かしたモデル教育プログラムの開発による大学院博士課程教育の充実を図った。



図1. 「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業

(2) 第3期中期目標期間における「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の実施

第2期中期目標間中の2014年（平成26年）に、第3期中期目標期間における概算要求（機能強化経費）に向けて、薬学部及び大学院薬学研究科を有する国公立大学法人17大学が参画する新規事業として、「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」を計画し、2015年（平成27年）に大阪大学において機能強化経費によって推進する第3期中期目標・中期計画の主要事項である「教育」（高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引する「知」を備えた人材を育成）の事業として申請し、採択となった。本事業の申請内容は、以下の通りである（図2）。

（2016年度「教育研究活動（プロジェクト等）所要額調」より抜粋・一部改変）

1) 事業の必要性

【目的・目標】

事業全体の目的は、国公立17大学による学部高学年及び大学院博士課程におけるアドバンスト教育研究プログラムの共同開発とその普及・定着化にある。即ち、参画大学間の密な連携によっ

て開発したプログラムを各大学で実施し、さらにこれらの大学を拠点とする全国の8地区で私立大学を含めた大学間連携体制の構築によりプログラムの普及・定着化を進めることによって、現在及び未来の医療のダイナミックな変化に的確に対応して、臨床現場で先進的な医療を提供することができる。さらに、こういった取組によって開発から安全確保までを包括する創薬研究や高度な保健衛生を主導できる高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな視野・立場に立った活躍を推進することが可能となる。

【必要性・緊急性】

現在及び未来の医療のダイナミックな変化に的確に対応して、質の高い薬物治療や保健衛生を広く提供するためには、先導的薬剤師教育のさらなる高度化とグローバルな視野・立場で活躍できる卓越した能力の修得が必要である。このような高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍の推進は、国公立大学薬学部が果たすべき大きな使命であり、また喫緊の課題である。

【独創性・新規性等】

これまで、国立14大学は連携して社会的要求が強い“先導的薬剤師”の輩出に必要な学部・大学院教育の高度化・実質化を可能にする教育プログラムの共同開発を行ってきた。参画大学の強み・特色は、附属病院等との連携により最先端の医療現場を教育の場とできること、充実した研究教育体制と施設・設備を活用した密度濃い双方向型少人数教育が可能なことなどが挙げられ、これまでの事業はこれらを活かして、先導的薬剤師の輩出を図ることにより、『国立大学改革プラン』に示された「全国的な教育研究拠点」の《大学や学部の枠を越えた連携による日本トップの研究拠点の形成》の達成が可能となった。しかし、一方で同プランに求められる《世界に開かれた教育拠点の形成》や《アジアをリードする技術者養成》といったグローバルに活躍できる人材の養成や、「地域活性化の中核的拠点」の《地域のニーズに応じた人材育成拠点の形成》については、同様に国立大学が果たすべき重要な使命であるにも関わらず、達成は困難であった。

そこで本事業では、これまでの事業の成果を基盤として、さらに世界と地域を見据えた人材養成を図るために、学部教育のモデル・コアカリキュラム改訂と4年制博士課程修了者の社会への輩出に合わせた6年間の事業として、これまでの国立大学による分担型・集約的な実施体制を改め、①各大学の国際的な教育研究における強み・特色を最大限に活用した世界水準統合拠点の形成と世界最先端の医療や発展途上国の公衆衛生を指導的な立場で担うことができるグローバル・リーダーの養成、及び②国立14大学と同様な強み・特色を持つ公立3大学を加えた全国8地区を網羅できる地域医療高度化のための中核拠点の形成と地域医療を指導的な立場で担う人材の養成を目指す。本事業は、各大学の教育研究資源を有機的な大学間連携によって補完的・発展的に統合するものであり、これまでにない独創性及び新規性を持つ。したがって、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出すことが求められる国公立大学において、社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりや、学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能強化が期待できる。



図2. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の概要

2) 事業の取組内容

【全体計画】

本事業では、高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するために以下の5つのプログラムを中心とした取組行う（図3、4）。

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師として、先進医療や高度学術研究・高度医療薬学研究、トランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンス、臨床疫学研究、さらには医療行政・薬事行政を指導的な立場で担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。このプログラムは、以下の4つのプログラムを開発・実施するための基盤となるものである。

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、グローバルな視野・立場で国際的な研究機関や医療機関、行政機関での活躍や、学際融合・分野横断型研究の

推進ができる薬学研究者や薬剤師、さらには世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

3. グローバル健康環境教育研究推進プログラム

グローバルな医療人としての広範かつ高度な専門性と高い使命感、領域を超えた汎用力を修得し、国際的な保健衛生・公衆衛生に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、文理協働による国際的な医療活動や、発展途上国における感染症予防や食・環境の安全確保、さらに国際的な保健衛生の課題解決や発展途上国での保健衛生・医療教育に貢献できる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム 国公立大学が全国8地区における薬学人材養成教育を担う拠点として、地区内の大学及び医療関連機関との有機的な連携体制の構築し、これに基づいた学部・大学院における薬学人材養成教育の高度化・実質化、社会人教育・社会貢献活動の充実、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習の実施体制の整備を行うことにより、地域における医療の充実・発展を推進する。

5. 地域医療教育研究推進プログラム

全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的地域医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

4 及び 5 のプログラムについては、国公立大学19大学が所在地区（全国8地区）における薬学人材養成教育の拠点として、それぞれ地区・地域の特色を反映した地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の養成を図ると共に、全参画大学の連携により、全国的な地域医療の充実・発展に向けた教育研究活動を企画・推進する。

本事業は、国公立大学の薬学部及び大学院博士課程における基盤的な教育研究プログラムを推進するものである。したがって、参画大学においては、文部科学省等の省庁や学術振興会等の助成事業等によって時限付きの教育研究支援プログラムを実施する場合、本事業の目的に合致するもの、あるいは相加的、相乗的な成果が期待できるものについては、当該事業の実施に係る規定に反しない範囲で、本事業との連携あるは共同事業として実施することとした。

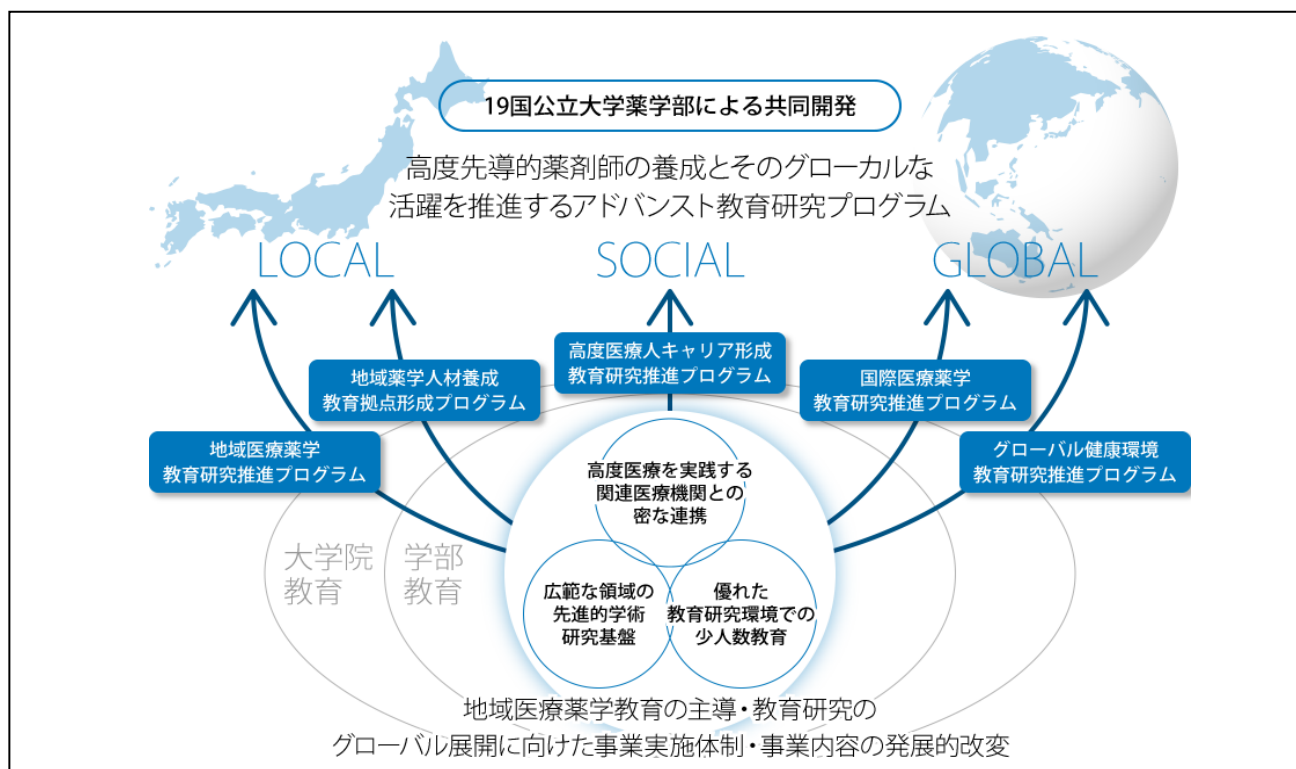


図3. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における取組

高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

【目標】

医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。

【事業内容】

- ⇒ 高度課題解決型教育、高度長期課題研究、高度大学院教育研究プログラム
- ⇒ 行政機関・企業等におけるアドバンストインターンシッププログラム
- ⇒ スーパー・薬学博士養成アドバンストプログラム

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

【目標】

高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた汎用力・創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。

【事業内容】

- ⇒ 実践的語学教育プログラム（共通）
- ⇒ 学生自主学修：海外研修・インターンシッププログラム
- ⇒ アドバンスト国際共同研究プログラム

3. グローバル健康環境教育研究推進プログラム

【目 標】

グローバルな医療人としての広範かつ高度な専門性と高い使命感、領域を超えた汎用力を修得し、**国際的な保健衛生・公衆衛生に指導的な立場で貢献できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。**

【事業内容】

- ⇒ 国際保健衛生・公衆衛生教育研究プログラム
- ⇒ 文理協働型発展途上国健康環境インターンシッププログラム

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

【目 標】

国公立大学が全国8地区における薬学人材養成教育を担う拠点として、地区内の大学及び医療関連機関との有機的な連携体制の構築し、これに基づいた**学部・大学院教育の高度化・実質化、さらには社会人教育、社会貢献活動の充実を図る。**

【事業内容】

- ⇒ 「先導的薬剤師養成アドバンスト教育プログラム」の地域への普及
- ⇒ 地域医療の高度化に向けた連携教育研究事業の企画・推進、全国的な普及

5. 地域医療教育研究推進プログラム

【目 標】

全国8地区において、国公立大学を拠点とした地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、**社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる優れた薬学人材を養成する。**

【事業内容】

- ⇒ 地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラム
- ⇒ アドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム
- ⇒ 地域医療アドバンストインターンシッププログラム

図4. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における取組の内容

3) 事業の実現に向けた実施体制等

本事業は、大阪大学薬学部・大学院薬学研究科を事業実施主体、16国公立大学薬学部・大学院薬学研究科（北海道大学薬学部・薬学研究院、東北大学薬学部・薬学研究科、千葉大学薬学部・薬学研究院、東京大学薬学部・薬学系研究科、富山大学薬学部・医学薬学研究部、金沢大学薬学部・医薬保健研究域薬学系、静岡県立大学薬学部・薬学研究院、名古屋市立大学薬学部・薬学研究科、岐阜薬科大学薬学部・薬学研究科、京都大学薬学部・薬学研究科、岡山大学薬学部・医歯薬学総合研究科、広島大学薬学部・医歯薬保健学研究科、徳島大学薬学部・薬科学教育部、九州大学薬学部・薬学研究院、長崎大学薬学部・医歯薬学総合研究科、熊本大学薬学部・医学薬学研究部）を学外協力組織として実施する（図5）。

大阪大学薬学研究科附属薬学地域医療教育研究センターにて、本事業の管理運営、予算管理を行う。当該センター長を委員長として参画大学の事業担当者によって構成される事業運営委員会を設け、事業全体の企画・運営を行う（図5）。各大学は当該事業担当者を責任者とした事業実施委員会を設け、さらに6年制教育担当教員や実務家教員、医学部や附属病院の担当者、実務実

習施設の指導薬剤師等で構成する地域連携会議を置き、地域内の私立薬系大学や病院・薬局等との連携の下、地域医療に関する事業を実施する。本事業の実施内容や成果は、適宜FD研修会やガイダンスで全教職員・学生へ周知し、情報の共有化と効果的運用を図る。

事業の成果は、成果報告書、日本薬学会年会シンポジウム等によって、公開する。プログラム担当者による自己評価や学生による評価も実施し、これらの評価結果を運営委員会によって検討・検証を行うことにより、プログラムの改善を図る。

上記のようなPDCAサイクルに基づいた事業運営によって、事業の高度化・実質化を図る。

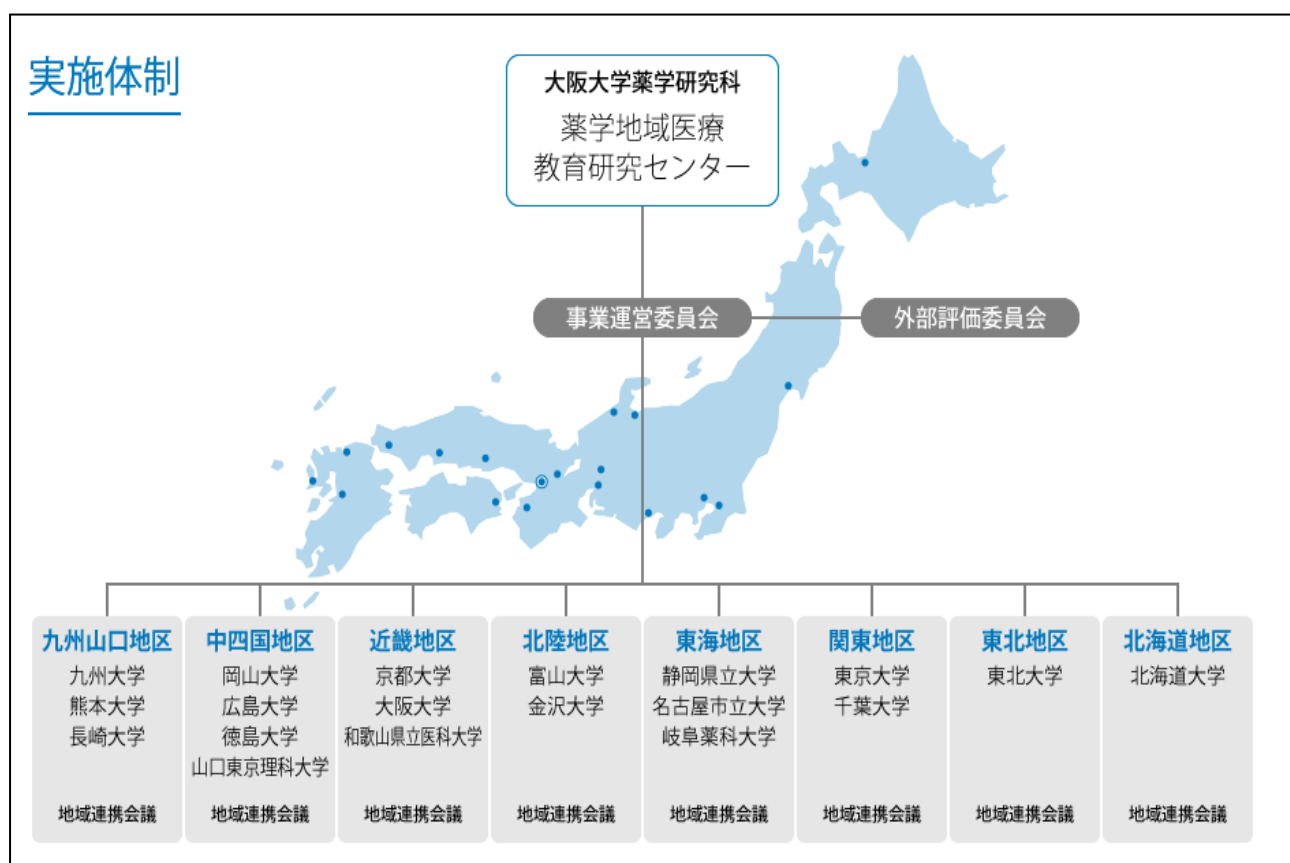


図5. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の実施体制

4) 事業達成による波及効果等（学問的効果、社会的効果、改善効果等）

本事業によって、現在及び未来の医療のダイナミックな変化に的確に対応し、先進的な医療の提供、包括的な創薬研究や高度な保健衛生において指導的な立場で活躍できる高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな視野・視点に基づく活躍の推進が達成できれば、以下のような波及効果が期待できる。

学問的効果としては、高度先導的薬剤師が薬学研究者としてレギュラトリーサイエンスやトランスレーショナルリサーチ、さらには臨床疫学研究等を主導することにより、高度学術研究や高度医療薬学研究の推進に貢献できる。また国際研究機関、国際医療機関等における活躍により、世界の生命科学研究の発展に貢献できる。

社会的効果としては、高度先導的薬剤師が医療行政・薬事行政を主導し、また地域の福祉医療・保健衛生を担うことによって、多職種連携によるチーム医療や高度な在宅医療の提供を通して、地域医療の発展に貢献できる。また、地域医療教育を主導する臨床系大学教員として、次世代の地域医療を担う人材育成にも貢献できる。

さらに国際的な波及効果としては、高度専門薬剤師が高度地域医療研究者や公衆衛生研究者として海外で感染症予防や食品・環境の安全確保を主導することによって、国際的な保健衛生の課題解決に貢献できる。

5) 事業計画期間終了後の取組の予定

本事業は2016年（平成28年）度～2021年（令和3年）度まで6年間実施する。事業計画終了後は、本事業で得られた成果を基盤に、取組の発展的継続を図る。本事業で得られた成果をもとに、国公立大学が拠点となる全国8地区において、私立大学さらには病院・薬局等との密な連携によって、本事業の成果としての高度先導的薬剤師のグローバルな活躍を実質化することにより、地域における健康長寿社会の実現や国際的な先進医療の推進、健全な健康環境の維持を図る。平行して、地区単位での実践的薬剤師教育のさらなる高度化を図る新たなアドバンスト教育プログラムを企画・実施することにより、高度先導的薬剤師の活躍の場の拡大を図り、多様化、高度化するニーズに的確するための医療の質のさらなる向上を目指す。

(3) 第3期中期目標期間における「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の基幹経費化

本事業は、初年度の2016年（平成28年）度は第2期中期目標期間に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業の最終年度である2015年（平成27年）度配分額と同じ 95,342 千円が配分されたが、当該年度の大阪大学の機能強化経費「教育」事業が高い評価を受けて、2017年（平成29年）には110%の配分があり、さらに大阪大学により同事業の中で本取組が優れた事業として評価されたことから、同年度の配分額は2106年（平成28年）度から約30%増額されて123,806千円となった。

文部科学省では、2017年（平成29年）度の予算から、機能強化に向けて重点支援を行った取組のうち、高い成果を上げ、学内に定着した優れた取組については、予算の区分を「機能強化経費」から「基幹経費」に組み替える「基幹経費化」の仕組みを実施することとなった。基幹経費化の条件として、

- ・ 2016年（平成28年）度以前から継続的に取組がなされているものであり、学内の基盤的な取組として位置付けられているもの。
- ・ 2018年（平成30年）度時点で学部等の組織が設置されており、学内の恒常的な取組として位置付けられているもの。

があったが、本事業は第2期地域目標期間に実施した文部科学省特別研究経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業の成果を基盤として、さらにこれを発展させることを目的としたものであり、また本事業運営のために「薬学研究科附属薬学地

域医療教育委研究センター」を設置し、学内の恒常的取り組みとして実施していることから、これらの条件を満たすものである。また、先に示した通り、本事業は国公立大学の薬学部及び大学院博士課程において高度薬学人材育成を推進するための基盤的な教育研究プログラムとなっており、今後の恒常的に維持・発展を図り、さらには薬学全体への普及と定着化を継続的に行うことが必須のものである。そこで、第4期中期目標期間（2022年（令和4年）度～2027年（令和9年）度）以降も、継続的に推進することができる「基幹経費化」を申請することとした。上記の通り、本事業は文部科学省及び大阪大学からの機能強化経費「教育」事業として評価が高かったことから、大阪大学財務部の支援を受けて申請を行うことができ、文部科学省における審査により2018年（平成30年）度からの基幹経費化が決定した。

本申請の内容は下記の通りであり、主に設定した5つの教育研究プログラムを推進することに変わりはないが、それぞれのさらなる充実・高度化と、基幹経費化による第3期中期目標期間に限定されるこのない長期的展望に基づいた自由度の高い取組への改革に着手した。なお、2018年（平成30年）度に山陽小野田市立山口東京理科大学、2020年（令和2年）度に和歌山県立医科大学に薬学部6年制薬学科が新設され、それぞれ当該年度より事業に参画したため、基幹経費化時点では国公立17大学による事業としていたが、2018年（平成30年）度からは国公立18大学、2020年（令和2年）度からは国公立19大学による教育研究プログラム共同開発事業とした。

以下、「[2018年（平成30年）度からの基幹経費化要望調書](#)」から一部抜粋・改変

1) 取組の概要

本取組では国公立17大学による学部、大学院におけるアドバンスト教育研究プログラムの共同開発とその普及・定着化を行う。即ち、参画大学間連携により開発したプログラムの実施と、参画大学を拠点とする全国8地区での大学や医療機関との連携体制の構築によるプログラムの普及・定着化を図ることにより、医療のダイナミックな変化に的確に対応して先進医療を提供できる高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進する。

2) 当初の目標に対して果たした役割及び成果等の実績

大阪大学薬学部・薬学研究科は、2010年（平成22年）度から2015年（平成27年）度まで、薬学部・薬学研究科を有する全14国立大学の連携のもとに、主幹校として特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」を実施した。この取組では、14大学を4つのグループに分けて、学部における「実践的医療薬学」、「長期課題研究」、「S P・P B L チュートリアル」及び「教育評価手法」、大学院における「チーム医療・地域医療」、「最先端創薬研究」、「高度医療人養成・レギュラトリーサイエンス」及び「トランスレーショナルリサーチ・臨床試験」に関する教育プログラムの共同開発とその実施により、大きな成果を挙げた。即ち、取組による人材育成の成果が現れる2013年(平成25年度)から2015年(平成27年度)までの後半3年間の教育プログラムの対象となる学生を著者とする学術論文数及び学会発表数は年々増加し、平均でそれぞれ250報及び500報に達した。2016年（平成28年）度から上記取組に公立3大学を加えて発展的に更新し、全国8地区において参画大学を中核とする高度教育研究プ

プログラムの共同開発とその実施により、初年度の平成28年度前半の半年間で論文数及び学会発表数はすでに350報及び500報を越えており、本取組の目的である“開発から安全確保までを包括する創薬研究や高度な保健衛生を主導できる高度先導的薬剤師の養成”は順調に進んでいる。また、これらの取組によって『国立大学改革プラン』（2013年（平成25年））に示された「全国的な教育研究拠点」の《大学や学部の枠を越えた連携による日本トップの研究拠点の形成》が達成されたと言える。さらに、これまで国公立大学では、学生の基礎研究への志向が強く、薬剤師国家試験の合格率は私立大学よりも低い状態にあったが、ここ数年は合格率が私立大学を大きく上回っており、これは学生の医療人さらにはPharmacist-Scientistとしての意識・使命感の向上と、臨床薬学研究への志向の拡大を表すものであり、同様にこれらの取組の成果と言える。このように、“高度先導的薬剤師養成”は、国公立大学の薬学部・大学院薬学研究科における機能強化において、必須の取組となっている。

3) 基幹経費を活用しての継続的な実施の必要性

医学部では大学数及び学生定員数の60%以上を国公立大学が占めるのに対し、薬学部では大学数の23%、学生数（6年制）に至ってはわずかの6%であり、また学生数に対する教員数や附属病院等の関連部局における指導者数は医学部よりも圧倒的に少ない。このような状況の中で、個々の国公立大学では上記の《日本トップの研究拠点の形成》と同様に『国立大学改革プラン』で求められる《世界に開かれた教育拠点の形成》や《アジアをリードする技術者養成》といったグローバルに活躍できる人材の養成や、《地域のニーズに応じた人材育成拠点の形成》、即ちグローバルに活躍できる人材の育成拠点の形成と、その活躍を支援・推進する基盤整備に鋭意取り組んでいるが、十分な人的及び物的リソースの提供ができないため、個々の大学の《大学や学部の枠を越えた連携による日本トップの研究拠点の形成》に見合ったこれらの項目の達成を望むことは難しい。そこで、平成28年度から本取組ではこれまでの取組を基盤として、個々の大学の特徴を生かしながら、大学間の有機的な連携と協働によりこういった弱点を補完、さらには強化できる発展的かつ実践的な教育研究体制の構築とこれを基盤とする教育研究プログラムの開発・実施に着手した。本取組では、社会が国立大学に求める「高度医療人キャリア形成」（プログラム 1）を基軸に、主に、グローバルな発展として「国際医療薬学」（プログラム 2）と「グローバル健康環境」（プログラム 3）、地域に根差した実践的な「地域医療薬学」（プログラム 5）を推進するための教育研究プログラムの共同開発と、全国8地区において参画大学を「地域医療薬学人材養成教育拠点」（プログラム 4）とするための教育研究プログラムによって構成される。本取組の特徴は、これらのプログラムにより学部低学年から高学年、大学院生、さらには卒業して医療現場等で活躍するOB・OGを縦につなぎ、また参画大学を横につなぎ、さらにその結び目に参画大学の地域連携拠点としての機能を付与した“ネットワーク”を構築することにより、これによって個々の大学では進めることができないグローバルに活躍できる人材育成のための拠点形成と、その活躍を支援・推進する基盤の整備が可能になり、目的とする《世界に開かれた教育拠点の形成》や《アジアをリードする技術者養成》、さらには《地域のニーズに応じた人材育成拠点の形成》が達成できる。

こういった“拠点”の形成により、国公立大学のみが担うことができる高度先導的薬剤師の社会への輩出を実現し、高度化・多様化する社会のニーズに応えられる先進的医療を提供するためには、参画大学は上記のような“ネットワーク”に人的及び物的リソースを絶え間なく投入することが必須である。さらに、現在及び未来の医療のダイナミックな変化に的確に対応できる人材育成を続けるためには、こういった“拠点”と“教育研究プログラム開発”をニーズに合わせて先駆的に発展・展開させることが重要であり、継続的かつ柔軟な人的及び物的リソースの運用を行うことによって“ネットワーク”を動的に機能させることが求められる。

こういった“ネットワーク”に対するリソースの投入は特別経費の目的に適うものであるが、時限によりこれが途切れることは“ネットワーク”を機能させる“血流”が止まること意味し、機能不全に陥ることは明確である。大学に対する運営費交付金が減り続ける中で、こういったリソースの投入を大学独自の資金によって維持することは困難であることから、基幹経費を活用した継続的な人的及び物的リソースを活用した運用を強く希望するものである。

具体的には、人件費として主幹校である大阪大学で雇用する特任教員（3名）と大阪大学2名、各参画大学1名の事務補佐員、運営費として国内旅費、外国旅費、国内講師招へい旅費、講師等謝金、シンポジウム開催費、教材開発費、消耗品費、病院実習費、薬局実習費がこれにあたる。

4) 基幹経費化を要望する経費の必要性

本取組では、まず人的リソースとして優れた人材を確保するための人件費の基幹経費化を要望する。グローバルな活躍が期待できる人材育成を行うためには、臨床現場での薬剤師経験と薬剤師教育の豊富な実績を有する特任教員の雇用が必要である。特任教員には、これらの経験・実績に加えて、医療行政やレギュラトリーサイエンス、臨床試験に精通した人材を雇用し、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、国立医薬品食品衛生研究所等の共同研究やインターンシップ等の教育研究を主導的に企画・運営させる。また、高い英語能力を有する人材を雇用し、海外での臨床研究に関する研修や臨床現場でのインターンシップ等の教育研究を主導的に企画・運営させる。さらに、特に在宅医療や終末期医療において豊富な経験を有する人材を雇用し、参画大学間の連携と協働を強化することにより、全国8地区における「地域医療薬学人材養成教育拠点」形成を主導させ、またその実質化を図らせる。こういった特任教員の雇用については、社会の医療に対するニーズの変化に柔軟かつ的確に対応した教育研究プログラム開発を行うために、任期を5年（更新可能）とし、また女性を積極的に採用する。また、参画大学間の連携と協働を継続的かつ発展的に維持することにより、取組の活性化と円滑な運営を図るために、大阪大学で2名、必要に応じて参画大学で各1名の事務補佐員を雇用する。

物的リソースとしての運営費については、上記のような人件費の基幹経費化による取組の強化を推進するために、継続的な投入が可能な基幹経費化を要望する。まず参画大学間の連携と協働を継続的かつ発展的に維持することにより取組の活性化と円滑な運営を図るため、取組の成果を学会等を通じて広く社会に公表するため、さらには海外における学生の活発な活動を支援するために、国内旅費、シンポジウム開催費及び国外旅費が必要である。また、国内外の著名な研究者

や教育者を招へいし、取組の活性化・実質化を図るために、国外旅費、国内講師招へい旅費及び講師等謝金が必要である。さらに教材開発費及び消耗品費については、参画大学に教育研究プログラム開発とその実施に必要な基盤的経費であり、各大学にほぼ均等に配分し、大学の負担経費と合わせて、参画大学による社会の医療に対するニーズの変化に柔軟かつ的確に対応できる教育研究プログラムの開発を継続的かつ発展的に行うために十分な経費を確保する。病院実習費及び薬局実習費については、現在大阪大学が中心となって国公立大学で進めている薬剤師教育改革の一環としての実践的臨床実習の充実・高度化に対応するものである。

5) 基幹経費化された後の展望

【2018年（平成30年）度】

2018年（平成30年）度は、人件費の基幹経費化を受けて、以下のような人材を活用した取組の推進と人材育成の実質化を図る。

まず、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、国立医薬品食品衛生研究所と大阪大学との人事交流により実績を積んだ人材を特任教員として新たに雇用し、「高度医療人キャリア形成」（プログラム 1）に関するこれらの機関との共同研究や、学部生・大学院生を対象としたこれらの機関における医療行政やレギュラトリーサイエンス、臨床試験に関するインターンシップ等を実施することにより、柔軟な俯瞰力、領域を超えた汎用力・創造力を持ち、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成を図る。

次に、「国際医療薬学」（プログラム 2）及び「グローバル健康環境」（プログラム 3）に関する教育研究プログラムを企画・運営できる特任教員を新たに雇用し、その強化を図る。具体的には、学部生・大学院生・社会人を対象とした欧米の海外連携医療機関での臨床研究研修や薬剤師業務に関するインターンシップ、大阪大学の国際戦略の基幹をなすアセアンキャンパス構想の進捗に合致したアセアン諸国における健康環境を探究する衛生薬学研究や感染症対策に関するインターンシップ等を実施することにより、国際的な創薬研究や医療の発展、発展途上国における保健衛生・公衆衛生の推進に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師の養成を図る。

さらに、「地域医療薬学」（プログラム 5）と「地域医療薬学人材養成教育拠点」（プログラム 4）に関する教育研究プログラムを企画・運営できる特任教員を新たに雇用し、その強化を図る。具体的には、学部生・大学院生・社会人を対象とした在宅医療や終末期医療に関する研修や地域医療インターンシップ等を実施することにより、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の養成を図る。また、参画大学を全国8地区における「地域医療薬学人材養成教育拠点」とした地域連携・協働体制を構築し、これを基盤として地域内の大学及び医療機関との連携強化を図り、開発プログラムの地域における普及と定着化を進める。

人件費の基幹経費化により、本取組を担当する事務補佐員の雇用を合目的に行い、取組担当事務組織を再編する。また、大阪大学に参画大学間の連携・協働に関する業務に専従する事務補佐員1名を置くことにより、参画大学間の連携と協働を継続的かつ発展的な維持を可能とし、取組の活性化と円滑な運営を図る。

運営費における基幹経費化は、参画大学間の連携と協働による取組実施とその実質化、さらに

は取組の成果公表による普及・定着化に資する旅費やシンポジウム等の開催経費、謝金と、参画大学における取組基盤の維持と柔軟かつ的確な改変を可能にする教材開発費について行い、消耗品費が主な大学法人負担経費を合わせて、**1** から **5** の教育研究プログラムの開発と実施に資する経費として支出する。

当初の2016年（平成28年）度の取組計画は、2017年（平成29年）度までに開発した **1** から **5** のプログラムの開発とその試行的な実施による参画大学での共有化、P D C Aサイクルに基づいた検証と改善を行うことにより、高度先導的薬剤師養成に向けた教育研究プログラムの開発を完了することにあった。上記の基幹経費化に伴う取組の充実・発展により、さらに教育効果及び実効性の高い教育研究プログラム開発が可能になると期待される。

【2019年（令和1年）度】

当初の取組計画では、2018年（平成30年）度までの **1** から **5** の教育研究プログラム開発の完了を受けて、2017年（平成29年）度からの補助期間後半においては参画大学での開発した教育研究プログラムの実施による高度先導的薬剤師養成に向けた実質化と、全国8地区での普及・定着化を進める予定であった。2018年（平成30年）度からの人件費と運営費の一部が基幹経費化され、本取組で形成した“拠点”と開発した“教育研究プログラム”を社会の医療に対するニーズに合わせて先駆的に発展・展開させ、継続的かつ柔軟な人的及び物的リソースの運用による“ネットワーク”を動的に機能させることが可能になれば、2017年（平成29年）度には、これに加えて以下のような検討を開始する。

まず、大阪大学を中心として「将来構想・企画委員会」を設け、高度高齢化社会の到来や新興・再興感染症の脅威、生活習慣病の蔓延、食品・環境汚染の深刻化などによって求められる医療の高度化・多様化、即ち医療のダイナミックな変化を的確に把握・解析することにより、3年（補助期間終了まで）、5年、10年及び30年の期間でそれぞれ高度先導的薬剤師が果たすべき使命、それを果たすために必要な資質を提言する。これに基づいて、短期・中期・長期的にこれらを **1** から **5** の教育研究プログラムの改変、あるいは新規のプログラム設定によって具現化するための人材育成の目標、人的及びリソースを精査の上、全体計画及び年次進行計画を策定し、順次取組に組み入れる。さらに、例えば、外部評価にこういった“今後の取組の変化”の妥当性、先進性の評価を基準として加えることにより、そのフィードバックを上記のような短期・中期・長期的な取組に反映する。このように、従来のP D C Aではなく、“変化”に柔軟かつ的確に対応できる先駆的なP D C Aを機能させながら、取組を進める。

【2020年（令和2年）度以降】

2019年（令和1年）度につき、参画大学での開発した教育研究プログラムの実施による高度先導的薬剤師養成に向けた実質化と全国8地区での普及・定着化を図り、さらには短期・中期・長期的に **1** から **5** の教育研究プログラムの改変、あるいは新規のプログラムの開発を図り、教育効果及び実効性の高い教育研究プログラムの実施と実質化による高度先導的薬剤師の養成を進める。

また、上記の「将来構想・企画委員会」において、プログラムを終了して社会に出た卒業生に

ついて、自己及び就職先に対するアンケート調査、インタビュー等によって、本取組の成果である高度先導的薬剤師のグローバルな活躍について評価・解析を行い、取組のさらなる改善に活かす。

- (4) 基幹経費化された**2022**年度における「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の成果

本事業の成果については、以下の**Ⅱ 事業成果報告** で報告する。

Ⅱ 事業成果報告

Ⅱ-1 はじめに

国立14大学が参画し第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業においては、医療現場での医薬品適正使用のみならず、創薬や保健衛生など広範な職域において指導的な立場で活躍できる“先導的薬剤師”の養成に向けて、学部教育においては「実践的医療薬学教育プログラム」、「長期課題研究及びアドバンスト教育プログラム」、「SP養成及びPBLチュートリアル教育プログラム」及び「教育評価手法プログラム」、また大学院教育においては「チーム医療・地域医療プログラム」、「最先端創薬研究プログラム」、「高度医療人養成・レギュラトリーサイエンスプログラム」及び「トランスレーショなるリサーチ・臨床試験プログラム」を共同開発し、これを参画大学において共有・実践した。これにより、各大学の薬学部における高学年教育及び大学院博士課程教育の充実と先導的薬剤師の養成における実質化を図った。

このような学部教育及び大学院教育の充実・実質化は、学部及び大学院のカリキュラムに反映される。2016年（平成28年）に改正が行われ、2017年（平成29年）から施行された三つの方針の策定・公表に関する学校教育法施行規則においては、全ての大学等において、三つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシー）を一貫性あるものとして策定し、公表するものとするとして、各大学における見直しが求められた。したがって、上記のように学部教育、大学院教育の基軸となるカリキュラムの充実・実質化を図ってきた参画大学においては、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づき、社会が求める薬学の発展を主導できる優れた薬学人材の育成に向けて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師養成に向けた教育研究に取り組んでいる。

（参照：参画大学の教育理念、学部及び大学院における教育研究上の目的及び三つの方針については各大学のホームページ等に詳しく記載されている）

第3期中期目標期間から引き続き実施してきた「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業では、このような優れた薬学人材、すなわち薬学の発展を担うべき高度先導的薬剤師を養成し、社会に輩出するために、参画大学を国立14大学から国公立17大学（2021年までに19大学に増加）に広げて、前事業における成果を基盤として、さらに高度かつ実践的な学部、大学院における教育研究プログラムの開発と実施を図った。上記の通り、参画大学は、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づいて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師の養成に取り組んでいる。本事業は、国公立大学の薬学部及び大学院博士課程における基盤的な教育研究プログラムを推進するものであり、具体的に

は主に下記の5つの教育研究プログラムについて、共同開発・実施、さらには普及・定着化を図った。

本事業で主に取り組んだアドバンスト教育研究プログラムは、

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム
2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム
3. グローバル健康環境教育研究推進プログラム
4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム
5. 地域医療教育研究推進プログラム

本事業では、前事業では重点を置いていなかった教育研究プログラムにより育成した高度先導的薬剤師がグローバルに活躍することを支援するためのプログラムの普及と定着化を図った。すなわち、学部や大学院を卒業・修了した薬学人材は高度先導的薬剤師として高度化・多様化する医療に的確かつ主導的に対応するために、常に自らの資質・能力の向上を図る必要がある。そこで、本事業の一環として、卒業者・修了者に対して上記のような資質・能力向上やキャリアの高度化を図るためのアドバンストキャリア形成教育研究プログラム等の提供により、その自己能力開発、自己研鑽に対する継続的な支援を図った。このような取組も主に上記5つのプログラムに取り入れ、あるいは下記の5つのプログラム以外の教育研究活動として実施した。

前事業の成果を共通の基盤として、参画大学それぞれの学部や大学院における教育理念、教育研究上の目的、三つのポリシーを尊重して、上記 **1～5** のプログラムについて担当を決めずに、参画大学全体あるいは他大学との協働を重視して、それぞれ取り組むこととした。また、参画大学が、上記のような自大学の教育研究活動やその実績、物的・人的リソースの特徴によって、特定のプログラムについて重点的に取り組むことや、独自の教育研究プログラムを展開することを可能とした。さらに、参画大学において、本事業の目的と同様の高度先導的薬剤師の養成に向けて、本事業以外の文部科学省等の省庁や学術振興会等の助成事業や、大学独自に物的・人的リソースを活用することによって取り組む教育研究プログラムについても、各大学の裁量に任せて、このような取組の実施に係る規定に反しない範囲で、上記の本事業の5つのアドバンスト教育研究プログラムの一環、あるいは本事業の連携あるいは共同事業として位置づけ、実施することとした。このような事業運営によって、自由度が高く発展性のある教育研究プログラム開発と実施、普及・定着化、ひいては“高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍の推進”の実現が期待できる。

成果報告については、まず参画大学において、独自あるいは他大学との連携によって開発、実施した主たる5つの教育研究プログラムの成果について、大学から提出された報告をもとに『Ⅱ-2. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラムに関する成果報

告』として報告する。

また、参画大学においては、高度先導的薬剤師の養成に向けて、上記の5つの教育研究プログラムに分類される教育研究活動にとどまらず、それぞれの物的・人的リソースを活用した様々な教育研究活動が実施された。これらの中には、各地区（全国8地区）において参画大学が主導する地域連携による教育研究の推進、卒業者・修了者のキャリア形成や活躍の支援、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた教育研究の質向上等がある。主たる5つの教育研究プログラムに含まれる教育研究活動もあるが、特に取り上げるべきものについて、『Ⅱ-3. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラム以外の教育研究活動に関する成果報告』として報告する。

また、大阪大学が主催あるいは実施責任者となった全大学連携による取組や教育研究プログラムについては、別項『Ⅱ-4. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において大阪大学の運営、企画によって実施した参画大学連携による教育研究活動に関する成果報告』を設けて報告する。

なお、特に「OUマスタープラン2027」に貢献したと考えられる項目については、貢献した主要な取組を記載している。

II-2. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラムに関する成果報告

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業では、主な5つの教育研究プログラムについて共同開発・実施、普及・定着化を図った。以下、これら5つのプログラムにおける教育研究活動の成果について報告する。

参画大学の事業成果報告をもとに、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されている。本報告書の別添資料としてまとめているので、参照いただきたい。

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

本プログラムでは、医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師として、先進医療や高度学術研究・高度医療薬学研究、トランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンス、臨床疫学研究、さらには医療行政・薬事行政を指導的な立場で担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。このプログラムは、本事業の5つの主プログラムの中で、他の4プログラムを開発・実施するための基軸となるものである。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、第3期中期目標期間中に実施した「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」については、国公立大学の優れた物的、人的リソースを十分に活用することによって実施する。本プログラムとしては、学部については、長期課題研究において最先端の研究に主導的に取り組むことにより、研究倫理に基づいた自己規制の中で優れた研究能力の修得を図る高度課題解決型教育プログラムや、高度長期課題研究プログラムが推進すべきプログラムとして挙げられる。大学院博士課程については、高い倫理観と卓越した研究能力を身に着け、独創的な研究により世界をリードできる人材を養成する高度大学院教育研究プログラム、さらにはスーパー薬学博士養成アドバンストプログラムが挙

げられる。一方で、学部あるいは大学院の在学中に、行政機関や関連企業の第一線において実践的で高度なマネジメント能力とリーダーシップ、さらには汎用力の修得を図るアドバンストインターンシッププログラムも有用である。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。2024年9月21日（土）第1部 臨床研究&実務実習
第2部 キャリア形成ワークショップ

<東北大学>

○ 産学共創大学院プログラム 未来型医療創造卓越大学院

- ・大学院生を対象。医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習できるプログラム。<https://www.fmhc.tohoku.ac.jp/>

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（平成27年度～）

- ・学部生を対象。附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行って
る医学部・看護学部学生と病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行ってる。

<東京大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。薬学部薬学科4年生後期に、医学部医学科および医学部健康総合科学科と合同で、医療現場における多職種連携の基礎となる医療者間でのコミュニケーションや協働の実践について、少人数グループでの討議および発表を通じて経験を深め、スキル習得を目指す実習を行った。

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。薬学部薬学科4年生後期に、本学および近隣私学の薬学生・医学生・看護学生各100余名の合同で、各専門職の役割・専門性を理解し、各専門職の立場で患者および多職種とのコミュニケーションについて学ぶことを目的とし、症例シナリオを題材に課題

を抽出し解決策を立案するグループワークおよび発表による実習を行った。

<富山大学>

○ 就職ガイダンス「自己分析講座」（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動に向かうにあたり、どのような企業が自分に向いているのか、また、面接の時に述べる自分の強み等を分析する。

○ 就職ガイダンス「適性検査対策講座」（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動開始前に自分の適性を分析する。

○ 薬都とやま未来懇談会（薬学系業界研究会）（*）

- ・学部生、大学院生を対象。進路を考えるためのセミナー。43社が業界や働き方について講演。

○ 就職活動のすすめ方と採用動向（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職情報収集のポイントと採用動向を学ぶ

○ 先輩の就活体験談から学ぶ「誰も教えてくれない」募集要項の見方講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動開始前に募集要項の見方を学ぶ

○ 就活準備スタートアップ講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動をするために、4年次において必要な事項について学ぶ

○ 日テレ式、コミュニケーション講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職環境・スケジュールの確認、就活に向けての心構え、コミュニケーションを学ぶ

○ 履歴書・エントリーシート作成講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職環境・就職活動時に必須である履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶ

○ 就職活動時に必須である面接・グループディスカッション対策講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動時に必須である面接・グループディスカッションの対策を学ぶ

○ 製薬企業概論（*）

- ・学部生を対象。富山県は、製薬企業が80社ある。研究やMR職以外にも薬剤師が活躍している現場は多いことから、それらについて学ぶ。

○ 「企業薬剤師育成学」（*）

- ・学部生を対象。薬学部薬学科(6年制教育薬学部)必須科目：製薬企業に勤務する薬剤師の体験談や職場の動画をもとに、主な職種と仕事内容、高度な知識・技能、仕事の意義ややりがいを理解し、卒後の将来展望を得ることを目標とする。

○ 企業薬剤師インターシップ（*）

- ・学部生を対象。薬学部薬学科(6年制教育薬学部)自由科目：製薬企業において実地での職業体験を実施し、講義や実習で学修した知識や技能が実社会の諸問題の解決に活かされる現状を認識することによって社会的使命感を高め、卒後の将来展望を得ることを目標とする。

○多職種連携プログラム（＊）

- ・学部生を対象。医学部医学科、医学部看護学科、薬学部薬学科の3学科の教員で臨床現場でのヒヤリハットのシナリオを作成し、3学科混成のグループで、どのようにすれば、ミスがおこらなかったのかを各職種の立場から議論をした。いずれの学科も臨床実習直前の学年で構成をした（薬学部・薬学科は4年生後期）

<金沢大学>

○ 短期留学プログラム

- ・学部生を対象。金沢大学薬学類の学生のための単位認定プログラム。英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げる。金沢大学薬学類の2年次の第2クォーターに実施しており、他の科目の履修に大きな影響を与えず海外研修が可能となっている（本プログラムは単位化されている）。本プログラムの特徴は以下の①-④である。①英語によるコミュニケーション力の醸成、②海外における薬学教育の理解、③英語プレゼンテーションの実践、④異文化体験

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。多職種連携医療体験実習・1年次夏季休暇中・薬学部17名、医学部医学科112名、医学部人間健康科学科1名 医療安全学・4年次後期集中・薬学部14名、医学部104名 医学部人間健康科学科22名
1年次には夏季休暇中に医学部の学生と合同で医療現場の見学・体験学習を行った。実習終了後には対面での事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。4年次には医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、臨床倫理、医療事故の分析についてスモールグループディスカッションを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○ 2024年度シン・全国学生ワークショップ

- ・学部生、大学院生を対象。「研究マインド・能力を持った医療人材を育成する6年制薬学教育を考える」をテーマとして、博士進学を目指す学生を、高度先導的薬剤師養成プログラム運営委員会より推薦する形で参加者を決定した。2024年8月24日～25日に昭和大学富士吉田キャンパスで開催され、本学からは、薬学科4年生1名が参加した。各大学から59名が参加し、日本薬学会薬学教育委員や他大学の学生らと意見交換を行った。薬剤師（薬学部卒業生）に必要な研究マインド・能力や研究マインド・能力を持った薬剤師を育成する理想的な6年制薬学部のカリキュラムや薬剤師のキャリア・生涯研鑽を考えるグループワークでは、自分たちで薬剤師の職能を示すことが必要であり、そのために学生のうちに教育について考えることができた本ワークショップの参加意義が極めて高いことが報告された。

○ 国立・企業研究所見学研修

- ・国立医薬品衛生研究所および株式会社島津製作所の研究所を現地で見学する事業であり、

今年度新規に行った。学内で公募を行い、3～5年生の5名と教員1名で参加した。2024年2月12日に株式会社島津製作所のShimadzu Tokyo Innovation Plaza、13日に国立医薬品衛生研究所を見学した。島津製作所では、グローバルな事業展開を行うための研究戦略や行政やベンチャー企業との共同による研究内容を紹介いただき、さらにそのような事業展開に必要な設備や機器等の実物を紹介いただいた。国立衛生研究所では、岡山大学との連携大学院や各部門で行われている政策として進められる事業について説明いただき、研究室内の設備や環境なども見学した。参加者は、大学との環境や研究内容の違いを強く認識し、現在の学修内容が様々な研究の基盤となることや国立の研究所と企業の研究所の研究内容の違いや大学との違いなどを実感するとともに、大学院での研究力の醸成が様々なキャリアに活かされることを理解できたと報告した。

○ 令和6年度国公立大学薬学人材育成ワークショップ 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、今年度は、2024年9月21日に大阪大学大学院薬学研究科においてハイブリッド形式で行われた。本学からは、学部生1名、大学院生1名、事業運営委員会委員の教員1名が参加した。第一部は臨床研究と実務実習をテーマとして行われた。薬剤師の偏在解消に向けた講演と各大学で自主的に実施されている実務実習の新しい取り組みについて紹介された。また、第二部のキャリア形成ワークショップでは、国立大学出身の薬学博士として大学教員、PMDA、行政、ベンチャー企業、大学病院薬剤師などの立場から講演され、多様な活躍のフィールドを紹介された。

○ 厚生労働省・PMDA見学会 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、今年度は、2025年2月27日に厚生労働省説明会・見学会、2月28日にPMDA見学会・座談会が行われた。本学部内で公募し、対面（現地）で3名（博士後期課程1名、学部生2名）、オンラインで3名（学部生）が参加した。参加者は、座談会での情報が印象的であると報告しており、働く環境や勤務制度の内容が一般企業と大差がない点や業務のカウンターパートとして各省庁の担当者や国会議員など、省庁に勤務する特有の業務環境についても知ることができ、未知の職業であった中央行政という職への理解を得ることができたと報告している。

○ 国立・企業研究所見学研修

- ・学部生を対象。国立医薬品衛生研究所および株式会社島津製作所の研究所を現地で見学する事業であり、今年度新規に行った。学内で公募を行い、3～5年生の5名と教員1名で参加した。2024年2月12日に株式会社島津製作所のShimadzu Tokyo Innovation Plaza、13日に国立医薬品衛生研究所を見学した。島津製作所では、グローバルな事業展開を行うための研究戦略や行政やベンチャー企業との共同による研究内容を紹介いただき、さらにそのような事業展開に必要な設備や機器等の実物を紹介いただいた。国立衛生研究所では、岡山大学との連携大学院や各部門で行われている政策として進められる事業について説明いただき、研究室内の設備や環境なども見学した。参加者は、大学との環境や研究内容の違いを強く認識し、現在の学修内容が様々な研究の基盤となることや国立の研究所と企業の研究所の研究内容の違いや大学との違いなどを実感するとともに、大学院での研究力の醸成が様々なキャリアに活かされることを理解できたと報告した。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部生を対象。医療人としての倫理観を醸成するために薬害被害者1名を招聘し、学部3年生を対象に勉強会を開催した。※令和7年度実施。

○ キャリアセミナー

- ・学部生、大学院生を対象。薬学出身者の多様な進路を紹介するためオンライン形式で、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方の講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。※令和7年度実施。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象。手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。※令和7年度実施。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象。医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、午前中に精神科外来診療室での診療に陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行う。※令和7年度実施。午後は、入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などの見学と実習を行う予定である。

○ 多職種連携教育プログラム

- ・低学年（薬学科1年生）と高学年（薬学科6年生）において医学部、歯学部、薬学部合同での多職種連携教育を実施した。低学年では災害医療など3つのテーマにつきチームで議論した。高学年では、学科によって学年は異なるが、実習後の学生が集い、2つのシナリオについてチームで議論し、医療チームとして模擬患者への説明を行なった。※令和7年度実施。

○ 広島大学薬学部高校生訪問実験

- ・科学や薬学での研究に興味を持って貰うために、広島市及び島根県の高校生を広島大学薬学部へ招待し、8つの研究室にて2日間の実験を行う予定である。

<徳島大学>

○ 第12回学部連携PBLチュートリアル

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として実施した。チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案した。

○ 2024年度 演習3（症例解析総合演習）

- ・薬学部6年生を対象として実施した。薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラムおよび臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討を行った。

<九州大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。医学部医学科・保健学科、歯学部との合同演習として「臨床倫理」「インフォームドコンセント」「チーム医療演習」を実施し、ロールプレイやSGDなどを通じて、問題解決能力の醸成のみならず、異職種における専門性の相互理解や他のコメディカルとのコミュニケーション能力の向上を図っている。

○ 国公立大学人材育成ワークショップ **【連携】**

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、本学からは学部生2名、教員3名が参加した。

○ 厚生労働省PMDA見学会 **【連携】**

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、本学からは学部生4名が参加した。

<長崎大学>

○ 長崎大学育薬研究教育センター若手シンポジウム

- ・12名の学部学生及び2名の大学院生が研究発表を行い、その中から4名に優秀発表賞を授与した。学生の研究発表後には、米国の薬学部教員として活躍している卒業生による講演と日本トップクラスのアカデミア研究者による特別講演を行なった。本シンポジウムには、学部生47名、大学院生10名が参加し、活発な質疑応答を行った。2024年10月3日開催

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 **【連携】**

- ・学部生、大学院生を対象。薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」および「てらわき薬局城西」のご協力のもと、対面・遠隔での特別講演会・施設見学、先輩薬剤師のキャリアパス・意見交換会などの研修を実施した。

○ 医学部医学科臨床実習（クリクラ）と連携した参加型実務実習

- ・学部生を対象。病院実務実習の一環として、6内科診療科（腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、消化器内科、血液・膠原病内科）のうち1～2診療科の医学科臨床実習に医学部生と一緒に参加し（合計3週間／学生）、その他、中央検査部での検査実施や看護部での病棟看護研修を（各1日／学生）、熊本大学病院の薬剤部と連携して実施した（平成22年度から今年で15回目）

○ リーダーシップを学ぶ研修

- ・大学院生を対象。外部講師を招聘し、キャリア形成や研究・ビジネス・社会貢献に必要なセルフリーダーシップ、チームリーダーシップ、グローバルリーダーシップを学び、実践的スキルを習得する研修を実施した。

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習（IPE教育）

- ・静岡県立総合病院と協力し、薬学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を

行った。

○ 静岡救命連携演習

・BLSプロバイダーコースを学内で開催した。また、一次救命処置実習を必修科目として実施した。

○ 静岡救命連携演習

・全国禁煙アドバイザー育成講習会を学内で開催した。学生は、禁煙指導に必要な知識を習得し、日本禁煙科学会認定禁煙支援士（初級）の資格を取得した。必修科目として実施した。

○ AED講習会

・早期体験学習として、薬学部1年生を対象にAED講習会を行った。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した教員が指導した。

○ 大学院特別講義

・大学院生を対象に、学外の著名な研究者を招聘し、研究の最前線を紹介する講義を実施した。

○ 薬学講座

・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象に、薬害被害者の方と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会をオンラインで実施した。

○ 月例薬学セミナー

・学部生及び大学院生を対象に、学外の著名な研究者を招聘し、研究の最前線を紹介する講義を実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センター講座（公立大学連携薬剤師生涯学習講座） **【連携】**

・2015年度より静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修に本学学部学生も参加（薬剤師受講は有料、学生は無料）。全8回の研修で、4回は静岡県立大学とオンラインシステムを利用した連携講義、4回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。

2024年度は大学から発信する研修として、講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」を大学教員・大学病院薬剤師が地域薬剤師に向けて発信することに特化したもので、実習・演習は、薬学部3年生の授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施した（オンラインシステムを活用したオンラインハイブリッド研修）。

また、1回の薬剤師スキルアップ研修ではオンラインハイブリッド研修による患者に優しい製剤を考える講義及び演習を行った。

○ 社会のニーズに対応できる新しい医療人教育の開発と実施

・1) 手話による服薬指導研修 90分×2回、4年生薬学科56名

薬剤師で手話通訳の資格をもつ外部講師による演習。手話を学ぶという興味から、障がいをもつ方達とのコミュニケーションについて考えることを主眼においた研修。声の出せない耳が聞こえないというようななかなか実感として理解できない障がい者の感覚を演習を通して学び取る。本研修では意思を伝達するコミュニケーションの本質を考えさせるとともに、医療人としての心構えを学ばせることに重点をおいている。

2) 精神科専門病院の薬剤師、臨床心理士による特別演習 90分、4年生薬学科56名

精神科専門病院の薬剤師と臨床心理士を講師として実務実習で精神科領域での薬物療法に臨むための基礎講義と演習を実施。

- (1) 精神科の薬物療法の特徴と考え方について講義と演習（講師 薬剤師）
- (2) 薬物療法以外の心理的手法を用いた最新治療法の紹介（講師 公認心理師）

3) 高齢者医療におけるポリファーマシー改善を目的とした外来講師授業 90分×2回、4年生薬学科56名国立長寿医療研究センターの薬剤師を講師として迎え、薬剤師生涯学習の内容を薬学生向けにアレンジした内容で、多数の薬を服用している高齢者の薬物療法についての考え方を事例の演習と講義で研修を実施した。まず、10種類以上の処方薬を服用している事例をSGDにてグループ討論して、処方提案をロールプレイ。その後講師の評価と解説行って、薬剤師が高齢者のポリファーマシー改善に対応する考え方（課題解決の道筋）を学習した。

4) 薬局薬剤師と連携した薬剤師実務研修 90分×16回、4年生薬学科56名
改訂コアカリでは、実践的な臨床能力を身につけることが規定されているが、大学教員からの講義だけでは、実際の医療現場、特に薬局での継続的な患者指導やセルフメディケーションの指導に対応することは難しい。本学では薬局薬剤師、特にドラッグストアで勤務する薬剤師と連携して、新しい研修開発を試みている。

◎セルフメディケーション演習

前半：実際のドラッグストアの事例をもとに、風邪薬と胃腸薬の選択を行い来局者にその理由とともに説明を行う。SGDを行った後、その成果を模擬患者に実際に相談を受ける形で成果を披露し、薬局薬剤師からフィードバックを受ける。

後半：併用薬がある、病院の薬は飲みたくない、妊娠しているなど薬局現場で実際に遭遇する事例について、今度は模擬患者から聞き取る情報だけでどのように対応すべきかをSGDで検討し、その対応方法について全員で検討し、薬局薬剤師とロールプレイを行ってフィードバックを受ける。本研修は、実際にドラッグストア等で販売や健康相談に携わっているベテラン薬剤師が講師（のべ8名ほど）としてSGDから対応法の評価まで関わって行うもので来局者の対応についても詳細な実践的な部分まで指導を行ってもらっている。

◎薬局での地域住民健康サポート業務体験研修

薬局で実施できる住民健康サポートのための各種測定を実際に体験する研修。測定項目：血糖、HbA1c、血中脂質、BMI、体組成、血圧、体温、握力、ロコモ診断など薬局店頭で地域住民の健康サポートに活かすことのできる業務を、サポートを受ける側と、指導する側の2方向から体験する。この体験は生活習慣チェックによる薬局の健康相談を体験させる研修となっている。

◎患者情報から医師へのトレーシングレポート作成演習

薬局薬剤師から提示される実際に課題のあった症例を検討する。薬歴情報、患者からの聞き取り情報等から、学生達がSGDを行い、分析した結果を発表。その結果をトレーシングレポートに作成し、医師に送付する。さらに継続して来店した際の情報から、患者の変化をアセスメントして、必要な服薬指導ならびに処方提案などの業務の選択をさらに行って、模擬医師に報告あるいは疑義照会等のロールプレイを実施し、最終的な評価を薬局薬剤師から受ける。

5) オンライン服薬指導演習 90分×2回、4年生薬学科56名

ベテラン模擬患者の方に協力いただき、「患者・来局者の生活背景」を問診で確認し、薬物療法の指導に活用していくコミュニケーション演習として、双方向でのオンライン服薬指導演習を実施した。学生達が予めSGDで症例検討した課題で作成した服薬情報提供書などを活用して、模擬患者からどのように状況を遠隔で問診し、それを健康相談や受診勧奨、服薬指導等に活かすかを学習する。この学習は、オンライン服薬指導の教材コンテンツの開発にもつながっている。

6) 新しい臨床シミュレーターを用いた救急医療参画演習 90分×2回、4年生薬学科56名
ICUや救命救急領域での業務経験を有する臨床系教員が中心となって、新規に購入した継続的な薬物治療のシミュレーションが可能なシミュレーターを使用し、救急外来に搬入された患者への対応を3種類の症例を使って薬剤師が何をどのように判断し、多職種と連携すればよいかを経時的にグループでSGDを行いながら演習する。血圧や心電図、SpO2の測定なども取り入れ、患者に何が起きているかを類推しながら、原因をあげ、その解決策の案を短時間で考案する体験を行うことで、救急医療での薬剤師の貢献や多職種連携の重要性を学ぶ。

7) 注射実技のシミュレーション、感染症流行時の検査シミュレーション実習 90分×4回、4年生薬学科56名

名市大病院看護師8名を講師に招き、注射（筋注、皮下注、点滴静注）および輸液ポンプの実技と患者対応、医療安全についての講義と実技練習をシミュレーター等を用いて行った。新型コロナウイルス感染症の流行を受け、薬剤師に感染症対策で何が可能か、何が重要かを考える授業として、病院や薬局でのワクチン接種のシミュレーションも実施。また、鼻腔ぬぐいのシミュレーターも使用して、薬局店頭でのPCR検査を想定した実技研修も実施した。多職種連携の中での医療安全の考え方を学ぶとともに、注射や検査時の医療の共通言語も確認することができた。

8) 経腸栄養シミュレーターを利用した経腸栄養剤と簡易懸濁法の体験実習 90分×2回、4年生薬学科56名

在宅医療で経腸や経鼻での薬物療法に対応するため、簡易懸濁法に関する講義及びシミュレーターを利用し、実際のカテーテルの挿入から処方薬の投与までをシミュレートして学ぶ研修を実施。簡易懸濁法の実践、チューブの取扱いや医薬品の粉砕の影響などを、教科書の知識を実物で確認することで理解を深め、在宅医療での実践的臨床能力を高める実習を行った。また、点滴ラインやカテーテルへの薬剤の吸着・収着について講義により知識を深めた。

<和歌山県立医科大学>

○ 特別実習（入門）

- ・学部3年生の前期配当科目である「特別実習（入門）」において、キャリア形成教育研究推進プログラムの一環として、後期からの卒業研究（特別実習）の開始に向けて、高度医療人としてのキャリア形成に関する講義、各研究室の研究内容の紹介、学生が選択する3つ以上の研究室での研究体験を実施している。

○ 特別講義

- ・学部生の配当科目において、キャリア形成教育研究推進プログラムの一環として、厚労省、PMDA、科警研、農水省等の公的機関の国家公務員、製薬会社・食品会社の研究開発担当者、病院・薬局で先進医療・地域医療を担う薬剤師、全国薬害被害者団体連絡協議会世話人、知的財産の専門家等を講師とする特別講義を実施している。2024年度は57回実施した。

<山口東京理科大学>

○ 現役薬剤師を招聘し実践的薬学臨床実務実習

- ・学部生を対象。薬学臨床事前実習は患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で薬剤師業務の基本的な業務である調剤をはじめ、服薬指導、患者対応、医薬品の適正管理、薬物治療法の実践などの薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する実習であるが、この実習に現役の薬剤師を7名招聘し、学内の教員では得られない、実際の現場で起こる問題や課題をどう解決できるかの実践的な実習を行った。

○ 高度先進的薬剤師育成研究助成事業

- ・学部生を対象。「卒業研究」では薬学・医療の進歩と改善に資するため、教育を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけることを目標としており、同研究に対して「高度先導的薬剤師の育成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンス教育研究プログラムの共同開発」の趣旨に沿って、本学薬学部の学生が研究を推進していく上で必要な研究経費を助成した。なお、20件が本研究助成を受け、卒業研究を遂行し、年度末に報告書の作成を行った。

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラムの開発

・3～4年次に配置した必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGD(Small Group Discussion)を中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発。代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返し行なうことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成につながることが期待される。同授業の報告書は継続的に作成し広く公開している。

<大阪大学>

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ **【連携】**

・2024年9月21日（土）ハイブリッド開催：第1部では「臨床研究と実務実習について」、第2部で「キャリアアップワークショップ」とし、現在国公立大学の教育研究における大きな課題である「4年制博士課程の在り方」を取り上げた。対面60名（学生27名、教員33名）オンライン36名（学生12名、教員24名）合計96名の学生・教員が参加した。

○ 厚生労働省・PMDA説明会 **【連携】**

・2025年2月27日28日厚生労働省・PMDAの説明会（ハイブリッド開催）17大学から対面（39名）、オンライン（39名）の学生(学部生、大学院生含む)が参加。

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

本プログラムでは、高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、グローバルな視野・立場で国際的な研究機関や医療機関、行政機関での活躍や、学際融合・分野横断型研究の推進ができる薬学研究者や薬剤師、さらには世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「国際医療薬学教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に欧米等の最先端の生命科学研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。実践的語学教育プログラム（共通）をもとに、学部については、国際学会への参加、学生自主学修としての海外研修・インターンシッププログラム、大学院博士課程については、アドバンスト国際共同研究プログラムによる海外研究機関や大学における研究活動の実施が挙げられる。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 6大学ジョイントシンポジウム **【連携】**

- ・学部生、大学院生を対象。学生による英語での研究発表。※2025年度実施予定

<東北大学>

○ 国際共同大学院プログラム 統合化学国際共同大学院

- ・大学院生を対象。東北大学の化学は、さまざまな事象を分子レベルで解明し、有機化学の分野を中心に、世界を先導して来た歴史的な背景がある。東北大学が強みを有する化学を基盤として、物理、生命、情報等の異分野の領域に踏み込み、化学の総合知に立脚して新たな課題に対応しうる学際的な研究を遂行するため、本プログラムでは、専門と学際領域のバランスの取れた教育体制を構築し、未来の科学を切り開くイノベーションにコミットできる課題対応能力の高い人材を育成することを目的とするプログラム。<https://gp-chem.tohoku.ac.jp/>

○ 国際共同大学院プログラム 食科学国際共同大学院

- ・大学院生を対象。2050年を生きる人類が必要とする「食」を科学的にデザインする

ことを目的とし、東北大学農学研究科、医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、文学研究科、国際放射光イノベーション・スマート研究センターが連携し、2024年10月にスタートした国際的かつ学際的なプログラム。

<https://gpfood.agri.tohoku.ac.jp/>

<富山大学>

- USC International Student Winter Program 2025 **(*)**
 - ・南カリフォルニアでのPharmDコースにオンラインで参加をし、海外の学生とのコミュニケーションを図った。学部生、大学院生を対象。
- USC International Student Winter Program 2025 **(*)**
 - ・南カリフォルニアでのPharmDコースにオンラインで参加をし、海外の学生とのコミュニケーションを図った。学部生、大学院生を対象。

<金沢大学>

- 金沢大学薬学シンポジウム
 - ・2024年度はレギュラトリーサイエンスシンポジウムと題し、国内のレギュラトリーサイエンスやデータサイエンス分野の教員を招いた。講義を聴くだけの形式ではなく、講師との自由討論の時間を十分に確保するなど、学生の研究に対するモチベーションや研究力の向上を目指した取り組みとした。学部生、大学院生を対象。

<岡山大学>

- フィリピンの薬剤師業務・教育・研究に関する海外視察研修
 - ・2025年2月16日（日）～2月20日（木）に本学と大学間協定を締結しているフィリピンサンカルロス大学の薬学部を訪問した。参加者は学部生2名（3年生と5年生）、大学院生1名（博士課程1年生）と帯同教員2名であり、本事業の旅費等は岡山大学配分予算により賄った。薬学部の講義に参加し、日本の大学の一般的なスクール型の講義と異なり、座学でもインタラクティブな参加型の講義形式となっている点に参加者の関心が向けられた。また、研究室の研究活動についても紹介され、フィリピンの気候特性に応じた植物化学の研究が精力的に行われていることを学んだ。さらに、セブ市内のCHONG HUA HOSPITALや市の運営するプライマリヘルスセンターを訪問し、フィリピンの医療制度における薬剤師の業務を学習した。本質的な業務内容は日本と変わらないものの、電子カルテやオーダーリングシステムが普及していないフィリピンにおいては個々の薬剤師の知識や技能が十分に活用される必要があり、日本よりはるかに長い薬学部生の実務実習期間が必要であることが理解された。また、PERPETUAL SUCCOUR HOSPITALのTHE RESEARCH INSTITUTEを見学し、臨床試験や治験などの高度医療に従事する薬剤師の業務内容を理解することができた。様々な施設における薬剤師業務や薬学教育現場を見学し、多領域の薬剤師業務における日本との差異を幅広く学ぶことができた。
- 米国薬剤師業務ならびに教育に関する海外視察研修 **【連携】**
 - ・2023年度に海外学生自主学修プログラムとして採択された事業を2025年度に行う予定である。2025年9月上旬に本学と大学間協定を結んでいるアメリカ合衆国ミシ

ガン州デトロイト市・ウェイン州立大学（WSU）のユージン・アップルバウム薬学・健康科学部（EACPHS）で研修を行う予定である。

<広島大学>

○ 米国テネシー大学・マーサー大学との国際交流

- ・本学薬学部5年生3名および大学病院薬剤師1名が2024年8～9月の4週間、米国テネシー大学・マーサー大学薬学部、および関連実習医療機関を訪問し研修を受けた。また、2025年3月に本学病院薬剤部および薬学部でテネシー大学薬学部6年生4名、マーサー大学薬学部6年生2名の研修を受け入れた。※2025年度実施予定

<徳島大学>

○ 2024年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生、大学院生を対象。学部間協定校である米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。2024年度は2024年1月から3月にかけて3回のビデオカンファレンスを実施した。本学部からのべ40名の学生が参加し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

<長崎大学>

○ ニューメキシコ大学短期研修プログラム【連携】

- ・学生自主学修プログラムに採択された合同申請プログラムの一環として実施した。2025年2月14日～2025年2月23日の全10日間の日程で実施し、①海外での臨床薬剤師の活躍を見学し、日本との差異を体験することでもって、高度先導的薬剤師の養成に資すること、②英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的な態度などを身に着けることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的としたもので、今回で5回目となった。全19大学の学部生・大学院生に公募をかけ、結果的に3名の学部生（自大学2名および他大学1名）をニューメキシコ大学（UNM）に派遣した。

○ ニューメキシコ大学薬学部実習生の受入（International APPE）

- ・2025年3月9日～21日、ニューメキシコ大学薬学部の正規授業である地域医療実習（実習生2名と引率教員1名）を長崎大学薬学部にて実施した。地域医療実習の前半1週間は、長崎大学薬学部での事前臨床実習、漢方実習、長崎大学病院薬剤部での臨床実習、市内薬局見学、久光製薬の工場見学を行った。後半1週間は上五島地区の離島実習施設（上五島病院、調剤薬局等）で僻地医療実習を行った。さらに、実習生によるアメリカの薬学教育や成果発表会、本学学生による日本の薬学教育や研究発表、茶道部による歓迎会や市内観光案内など本学薬学部学生が参加するイベントを組み込み双方の教員並びに学生の交流を促した。本学教員11名、本学学生のべ46名が参加した。

<熊本大学>

○ International Teaching Certificate Program の受講に基づくカリキュラムプランニングワークショップの開催【連携】

- ・わが国において臨床薬剤師の役割はまだ流動的なところが多い上、薬学教育は個々の教員の能力や臨床経験に依存している部分が大きく、系統だった人材育成が行われているとは言い難い。一方、アメリカ合衆国ニューメキシコ大学（UNMCOP）では、臨床薬剤師を養成するための教育システムが確立している。今回のプロジェクトでは、UNMCOPが提供する International Teaching Certificate Programを大阪大学、千葉大学の教員が受講し、アメリカの先進的な臨床薬学教育指導法を学ぶことで教員の臨床教育能力を高めた。

<静岡県立大学>

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。

○ 実務事前実習（4年生対象）講義

- ・米国アリゾナ大学薬学部のMichael Katz教授が講義を行った。

○ 薬学英语

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する講義を行った。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーション

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを行う講義を実施した。学生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 米国での医療の視察・研修への学生の派遣

- ・米国の薬剤師業務、薬学教育や医療制度における研修するため、アリゾナ大学薬学部、アリゾナ大学病院、ツーソン市内、ワシントン大学附属病院の薬局などの視察・研修を10日間にわたり行った。学生2名（5年生）が参加した。

○ コンケン大学への訪問

- ・コンケン大学へ訪問しセミナーを行った。本学から教員及び大学院生と学部学生が参加し、現地の教員・学生と交流した。

○ 静岡県立大学・バンドン工科大学合同シンポジウム

- ・薬学部教員と大学院学生がインドネシアバンドン工科大学との合同シンポジウム（オンライン）にて英語での発表を行った。

○ 科学英語

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援を講義の一環として実施した。

○ アリゾナ大学訪問報告会

- ・2023年度の米国アリゾナ大学薬学部訪問プログラムに参加した2名（薬学部6年生）がプログラムの内容について報告した（対面+オンライン形式）。

○ 臨床研究実施能力醸成に向けた教育手法開発についてのワークショップ

- ・米国アリゾナ大学教員により臨床現場におけるquality improvementについての講演とワークショップを行った。学生は小グループに分かれ、臨床事例についてディスカッションを行った。本ワークショップは本学と徳島大学とで共同で企画した。

<名古屋市立大学>

○南カリフォルニア大学臨床薬学研修

- ・薬学部生および大学院生それぞれ1名の計2名が南カリフォルニア大学で4週間の実地研修を行った。本プログラムにはさまざまな国々からさまざまな学年や経歴の学生が集い、講義やグループワークを中心に学習を行った。

3. グローバル健康環境教育研究推進プログラム

本プログラムでは、グローバルな医療人としての広範かつ高度な専門性と高い使命感、領域を超えた汎用力を修得し、国際的な保健衛生・公衆衛生に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、文理協働による国際的な医療活動や、発展途上国における感染症予防や食・環境の安全確保、さらに国際的な保健衛生の課題解決や発展途上国での保健衛生・医療教育に貢献できる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、第3期中期目標期間中から引き続き実施している「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に東南アジア等における感染症対策などの保健衛生・公衆衛生上の課題や環境問題、食糧問題といった健康環境に係る研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。本プログラムとしては、グローバルな視点での実践的なコミュニケーション能力を修得する実践的語学教育プログラム（共通）から、学部及び大学院博士課程における国際保健衛生・公衆衛生教育研究プログラムや文理協働型発展途上国健康環境インターンシッププログラムといった発展途上国を中心とした海外における教育研究活動の実施が挙げられる。後者については、SDGs達成に向けた実践的フィールドワークなどが有用である。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

- 1年生次 薬学概論、4年生次 薬学経済の講義の一部 （＊）
 - ・学部生を対象。公務員として活躍している薬剤師から仕事内容等の講義を受け、薬剤師が健康環境へ貢献していることを学ぶ。
- 株式会社桃谷順天館見学研修会
 - ・学部生、大学院生を対象。2024年9月5日、大阪市に本社を持つ株式会社桃谷順天館で見学研修を行った。本学から応募のあった学生から20名を選抜し、教員2名と共に研修に参加した。化粧品製造・販売企業には、薬学部卒業生や大学院修了生が多数在籍し、有機化学や製剤学などの薬学領域の知識を化粧品開発のフィールドに活かしている。化粧品の製造に関連する機器のみならず、細胞生物の分野で用いる定性・定量機器など薬学に馴染みの深い機器が備わっており、参加学生は在学中に

学ぶ学問が医薬品のみならず化粧品の研究・開発においても有用であることの理解が促された。同社では、海外の資源から優れた化粧品を開発し、国際的な市場を見出すためのグローバル事業を展開していることや、医療分野との共同研究を推進し、患者の疾患治療中のウェルビーイングを化粧品によってかなえるための研究が実施されていることを学んだ。薬学の領域の広さと国際的視点の重要性を学ぶことができた極めて有意義な研修であった。

<岡山大学>

○ 株式会社桃谷順天館見学研修会

- ・学部生、大学院生を対象。2024年9月5日、大阪市に本社を持つ株式会社桃谷順天館で見学研修を行った。本学から応募のあった学生から20名を選抜し、教員2名と共に研修に参加した。化粧品製造・販売企業には、薬学部卒業生や大学院修了生が多数在籍し、有機化学や製剤学などの薬学領域の知識を化粧品開発のフィールドに活かしている。化粧品の製造に関連する機器のみならず、細胞生物の分野で用いる定性・定量機器など薬学に馴染みの深い機器が備わっており、参加学生は在学中に学ぶ学問が医薬品のみならず化粧品の研究・開発においても有用であることの理解が促された。同社では、海外の資源から優れた化粧品を開発し、国際的な市場を見出すためのグローバル事業を展開していることや、医療分野との共同研究を推進し、患者の疾患治療中のウェルビーイングを化粧品によってかなえるための研究が実施されていることを学んだ。薬学の領域の広さと国際的視点の重要性を学ぶことができた極めて有意義な研修であった。

<静岡県立大学>

○ 薬学概論

- ・薬学部1年生対象の薬学概論の講義で、「健康を守る薬学（薬事行政）として行政の担当者を講師とする講義を行った。

<和歌山県立医科大学>

○ 山東大学学生交流プログラム

- ・学部生を対象。2024年10月、学術交流協定を締結している山東大学から医学部・薬学部・保健看護

学部の学生10名を受け入れた。学内の医療、教育、研究関連施設での見学や研修、現地学生との交流を行った。

○ 香港中文大学学生交流プログラム（招へい）

- ・学部生を対象。2024年5月、学術交流協定を締結している香港中文大学から10名の薬学部生を招へいし、学生交流プログラムを実施した。附属病院、学外の病院・薬局の見学、本学の学生対象の実習・演習への参加、学生企画プログラムへの参加を通して、交流を深めた。

○ 香港中文大学学生交流プログラム（派遣）

- ・2025年3月、学術交流協定を締結している香港中文大学へ4名の薬学部生を派遣

し、学生交流プログラムを実施した。附属病院・学内施設の見学、授業への参加、学生企画プログラムへの参加を通じて、交流を深めた。

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

本プログラムでは、国公立大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）における薬学人材養成教育を担う拠点として、地区内の大学及び医療関連機関との有機的な連携体制の構築し、これに基づいた学部・大学院における薬学人材養成教育の高度化・実質化、社会人教育・社会貢献活動の充実、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習の実施体制の整備を行うことにより、地域における医療の充実・発展を推進する。

本プログラムは他の4プログラムとは異なり、本事業で国公立大学が開発・実施している教育研究プログラム等の地域さらには全国での推進を目的とするものであり、前事業の「先導的薬剤師養成アドバンスト教育プログラム」や本事業「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」の地域への普及や、地域医療の高度化に向けた連携教育研究事業の企画・推進、全国的な普及が挙げられる。これまで国公立19大学は、全国8地区においてそれぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに、薬学実務実習を主導し、また地域医療の発展を担ってきた。本事業では、こういった連携体制と実績を基盤として、薬学人材養成教育を担う拠点の構築と教育研究プログラムの普及・定着による推進を目指すものである。

【2024年（令和6年）度】

<富山大学>

○早期介護体験実習（*）

・学部生を対象。1年生次に医薬系の学科の学生の混成チームとなり、福祉施設や慢性期病棟を持つ病院にて、1週間の実習を受け、地域医療での医療人また、その中でも、薬剤師の役割を学ぶ。

○北新のシームレスながん医療を担う人材養成（次世代のがんプロフェッショナル養成プラン）【連携】

・大学院生を対象。我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公立の6大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、長野県看護大）で、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムを構築する。薬学系では、大学院生・地域の薬剤師を対象とした教育プログラムを実施している。

<金沢大学>

○身近な薬草勉強会

・学部生、大学院生を対象。本学の附属薬用植物園は国内でも随一の面積を誇る。様々な薬草が栽培されており、薬草への理解を深めるための勉強会をおよそ月1回のペースで行っている。学生のみではなく、地域住民にも公開しており、地域住民とのコミュニケーションも図りつつ、そのニーズを知る機会となっている。

<岡山大学>

○津山洋学資料館学外研修（＊）

- ・2024年9月26日、本学1年生を対象に津山洋学資料館での学外研修を実施した。学内から公募し、薬学科（6年制）22名、創薬学科（4年制）18名の計40名が選抜された。津山洋学資料館では、幕末から明治期にかけての医学・薬学・科学の歴史を学ぶとともに、昼食時には大学院進学に関する説明を現役の大学院生から行った。終了後のアンケートでは、参加の満足度は66.7%の学生が満点を選択し、大学院への進学を検討する程度についても53.8%の学生が満点を選択した。その他、「医学・薬学・科学への強い探究心をもって生涯研究に従事したい」や「海外の情報に触れ、自身も発信していく重要性を学んだ」などの参加者のコメントがあり、1年生という早期から研究全般のマインドを醸成するために非常に有意義な会であった。

○アンチエイジング医療研修

- ・2024年9月5日、10日、12日および19日に、本学学部生を対象にアンチエイジング医療研修を実施した。会場は本研修の担当者の研究室で行い、学内の公募に応募した18名の学生が参加した。研修では、参加者自身の血圧、HbA1c、血管老化偏差値、皮膚自家蛍光値および尿中8-OHdG/Crを測定し、参加者一人一人の現在の糖化速度や、酸化ストレス度合も数値化して同年齢の参考基準値と比較した。各参加者にインタビューした生活習慣と照らし合わせて、現時点での生活習慣の問題点や、生活習慣の修正による改善策についてディスカッションを行った。参加者からは、地域医療における生活者の健康維持・疾患予防を含む健康サポートに積極的に貢献できる先導的薬剤師という観点から、各検査の原理、得られた結果の解釈を詳しく学ぶことができ、測定結果を根拠として、説得力をもって生活習慣の修正に活かせること、さらに老化・抗老化研究への興味を深めることができ、有意義な会であったことが報告された。

<九州大学>

○薬局実務実習における在宅医療実習

- ・社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の育成を図ることを目的として、薬局実務実習において、学部生を対象とした在宅医療や終末期医療に関する実習を実施し、来年度実務実習を行う臨床薬学科4年生や薬局薬剤師も参加する報告会を開催しディスカッションを行った。

<長崎大学>

○長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生、大学院生を対象。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図るもの。2024年度は12月10日に定例会議を開催した。

<熊本大学>

○感染医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生を対象。パンデミック下での大規模災害時に医療従事者が行うべき感染対策を討議・学習する3学科（医学部医学科、保健学科、薬学部薬学科）合同実習、シミュレーターを用いた薬学部生のワクチンの調製・投与（筋注）実習を実施した。また、感染症対策に関する外部講師による講義や手洗いトレーニングボックス グリッターバッグを用いた手指消毒の実習を行った。

○地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業

- ・学部生、大学院生を対象。熊本大学と崇城大学の強みと連携機関（九州保健福祉大学、各県病院薬剤師会・薬剤師会・行政）との関係を基盤に、南九州・沖縄地域のへき地・災害医療への対応ならびに薬剤師偏在の解消を目指し、自然とデジタルが調和した令和の薬剤師職能ロールモデルを提示するプログラムである。本年度は、「南九州薬剤師地域偏在検討会議」の実施、モバイルファーマシー実習、医療MaaS実習、地域の小学生を対象とした薬剤師1日体験学校、新型薬学シミュレーターのコンセプト提示などを行った。

<名古屋市立大学>

○ コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム

- ・医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラム）

本プログラムは、本学多職種連携教育の一環として、地域医療に貢献する医療人材育成を目的とした学部横断型の授業である。本プログラムは、薬学部1年生から6年間で順番にプログラム授業を10単位修得すると、プログラム修了証書が薬学部から発行される。

★1年生 医薬看連携地域参加型学習：薬学科76名（医学部97名、看護学部121名）★2年生 コミュニティヘルスケア基礎 薬学科67名★ 3年生 コミュニティヘルスケア 応用 薬学科19名★4年生 コミュニティヘルスケア発展 薬学科9名

<静岡県立大学>

○ 大学病院薬剤師シンポジウム

- ・信州大学医学部附属病院薬剤部・薬剤部長の内藤隆文先生の講義の後、大学病院での薬剤師業務の実際というシンポジウムを行い、山梨大学、信州大学、浜松医科大学の医学部附属病院の薬剤師から講義と質疑応答の時間を持った。

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・学部生及び大学院生を対象に、医師や薬剤師を招聘し、最新の薬物治療を紹介する講義を実施した。

<和歌山県立>

○ (一社)和歌山県薬剤師会/和歌山県立医科大学薬学部共催研修会

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年10月に病院・薬局の薬剤師や企業の研究者等を対象とした学術交流と新設した和歌山県立医科大学医学薬学総合研究科の案内を実施した。多くの関係者の参加があり、和歌山県立医科大学における人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

○第2・3回産官学連携準備セミナー

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年7月および2025年1月に県内の公的研究機関、製薬・食品・化学等関連企業を招いて、研究紹介や面談・情報交換の機会として産官学連携準備セミナーを開催した。多くの関係者の参加があり、和歌山県立医科大学におけるの県内の産官学連携及び人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

<山口東京理科大学>

○ へき地の在宅医療実務実習

- ・学部生を対象。2024年度は山口県薬剤師会から推薦された2薬局を拠点として、へき地への在宅医療実務実習を実施し、実習終了後の指導薬剤師との意見交換、学生による到達度をリーブリック、日誌、プレゼンテーション資料により学修効果を評価した。また、本学から5Gを活用し、へき地の在宅医療実務実習を行う学生へオンラインで服薬指導を実施した。

5. 地域医療教育研究推進プログラム

本プログラムでは、全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的地域医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、第3期中期目標期間中から実施している「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究の共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「地域医療教育研究推進プログラム」については、これまで国公立19大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）において、それぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに主導してきた薬学実務実習の実施体制や地域医療発展へ貢献してきた実績を基盤とし、また本事業の「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」において構築した薬学人材養成教育拠点を基軸として実施する。本プログラムとしては、地域の医療機関や病院、薬局、他大学との連携による、高度先導的薬剤師養成において重要な優れた臨床能力の養成に必要な地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラムや、自大学卒業生・修了生をはじめ社会で活躍する薬学人材のキャリアアップや専門性の高度化を可能とするアドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム、学部生や大学院生の地域医療への関心を高め実践的な臨床能力の向上を図る地域医療アドバンストインターンシッププログラムの実施が挙げられる。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

○がん高度医療人材養成事業

- ・学生・大学院生および薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施する

○金沢大学×野々市市おくすりプロジェクト

- ・野々市市との連携した事業で、1) 地域でサロンを開催し、ポリファーマシーの解消に向けた住民への知識啓蒙活動を行う、2) KDBを用いて野々市市におけるポリ

ファーマシーの動向と関連要因を解析する。

<岡山大学>

○ 地域密着型OTCカウンセリング研修（＊）

- ・2024年9月2日～3日に本学学部生を対象として地域密着型OTCカウンセリング研修を株式会社レデイ薬局のプライマリ・ケア認定薬剤師の指導のもとで実施した。学内で公募の上、学部生8名（1年生3名、3年生3名、6年生2名）が選抜され、帯同教員2名とともに研修に参加した。OTC医薬品の基礎知識、来局者の症状等に合わせたOTC医薬品の選定を講義、グループワーク、ロールプレイ等で学修した。さらに、薬が苦手な患者のための服薬サポート製品や、介護用品の大人用おむつや尿漏れパッドなどの実物を用いた研修も行った。終了後の学生のアンケートでは、実務実習でも十分にカバーできないOTCの実践的な取り扱いやコミュニケーション能力の重要性などを認識する重要な機会であったことが報告された。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。そこで、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。2024年度も漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<九州大学>

○ DXを活用した教育プログラム

- ・電子処方箋、オンライン服薬指導など昨今の世の中の急速な変化に対応するため、関連する知識に関する講義とオンライン服薬指導システム（テルモ社製ハートライン）を用いた演習を実施した。

<熊本大学>

○ ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

- ・熊本大学薬学部薬学科における薬学教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を加速し、ウィズコロナ～アフターコロナ時代に対応できる先進的な薬剤師を育成する目的で、DXファーマ養成プログラムの強化を図り、治療薬やワクチンによる副作用の評価に必要な知識・技能を効率的に学習する講義・実習、デジタル医療機器・ウェアラブル端末を用いたフィジカルアセスメントの重要性について学習する講義・実習、オンライン服薬指導・疑義照会に必要な知識・技能について学習する講義・ロールプレイ実習等を行った。

<長崎大学>

○ 医歯薬高学年次共修授業

- ・本学医学部医学科4年生、医学部保健学科4年生、歯学部4年生、薬学部薬学科4年生対象の共修授業で、10名程度/グループで、退院時カンファレンスを想定した症例検討をおこなった。2024年11月11日と11月18日にそれぞれ1コマ、合計2コ

マ行った。

○オンライン服薬指導実習

- ・ニプロのオンライン服薬指導システム「ニプロハートライン TM」を取り入れたオンライン服薬指導実習を実施し、遠隔医療に対応できる人材の育成に着手した。対面による服薬指導実習を行った4年生対象に、オンライン服薬指導実習を2日(2024年11月25日、26日)かけて実施した。

○A-fib研修プログラム

- ・長崎大学薬学部が、米国ニューメキシコ大学薬学部及び長崎県薬剤師会と協力して開発している地域医療教育プログラムであり、心房細動スクリーニングを基盤として、疾病予防に貢献できる高資質な薬剤師を養成することを目的にしている。長崎大学病院循環器内科、長崎大学脳卒中中心臓病等総合支援センター、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療協働センター、行政などの多職種の協力を得て、長崎市内で心房細動スクリーニングイベントをおこなった。イベントでは、9名の地域薬剤師とともに学生は簡易心電図測定、心房細動の早期発見と予防の啓発を行なった。2024年5月19日、9月16日に実施。トレーニングを受けた学生5名、教員6名。

○高次臨床実務実習Ⅰ

- ・臨床薬剤師としての実践的能力を養うとともに、薬物治療に関する問題発見・解決力を身につけることがねらいである。長崎大学病院内科系診療科(第一内科、第二内科、消化器内科、循環器内科、原研内科、熱研内科)の病棟と外来で2週間の診療参加型臨床実務実習を行った。薬学科5年生11名が受講。

○高次臨床実務実習Ⅱ

- ・五島市と新上五島町で、離島実習(保健・医療・福祉)を実施し、地域の患者や住民と向き合った全人的医療とチーム医療を体験した。さらに本学大学病院の専門診療科で外来・病棟実習を通して、専門薬剤師に向けた実践的能力を涵養した。薬学科6年生20名が受講。

○在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・長崎県内の国公私立3大学(長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学)が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業。2024年度も長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の3つの科目を提供した。

○早期体験学習

- ・本学習は医療現場での薬剤師の役割を理解し、キャリアについて考えることが狙いである。長崎市内の調剤薬局・病院を訪問し、薬剤師業務を見学、話を聞いた。見学後は大学内にて体験報告会を行い、学びを共有した。学部1年生が参加。

<名古屋市立大学>

○ 令和5年度文部科学省(大学改革推進事業)「地域の医療ニーズに対応した先進的な

薬学教育に係る取組支援採択事業」東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築) **【連携】**

- ・薬剤師の地域偏在を解消するための大学の教育的な貢献を目標に採択された事業であり、高齢化や人口減少が進み医療人材が不足している地域でのアドバンスト実習を正規の実務実習を修了した薬学生に体験させ、その地域で滞在してその地域の医療の現状や課題、さらには魅力を発見し、それを「映像コンテンツ」のプロダクトとして制作するという課題解決型学習のプログラム。プログラムで制作した映像コンテンツを活用して、学生主導による授業、薬剤師への研修を行い、アドバンスト実習の成果を広く薬学生ならびに薬剤師に公表して薬剤師偏在問題を考えてもらうことも、本プログラムの重要な目標とした。

今年度は、東海4県の連携大学が各2か所（名古屋市立大学は1か所で2回実施）の実習を担当し、7地区で8回のアドバンスト実習を行った。各地区には各大学からの希望者5名が参加した。

2024年度アドバンスト実習実施日

岐阜県（岐阜薬科大学担当）飛騨・高山地区：2024年9月17日（火）～20日（金）

下呂・金山・郡上地区 2025年2月17日（月）～21日（金）

静岡県（静岡県立大学担当）賀茂地区 2024年9月2日（月）～6日（金）

川根本町地区 2024年12月9日（月）～13日（金）

三重県（鈴鹿医療科学大学担当）熊野・尾鷲地区 2025年1月20日（月）～24日

（金）熊野・鳥羽志摩地区 2025年2月3日（月）～7日（金）

沖縄県（名古屋市立大学担当）沖縄北部地区 2024年9月2日（月）～6日（金）、

2025年3月3日（月）～7日（金）

成果レポートや映像コンテンツは東海薬学教育連携コンソーシアムHPにまとめ、公表するとともに、各大学で利用できるようにした。映像コンテンツを活用した薬学部PBL授業は名古屋市立大学で2年生、3年生、4年生に向け計3回、岐阜薬科大学では3年生、5年生に向け計2回、鈴鹿医療科学大学では2、3、4年生合同授業を1回と6年生による4年生対象PBL授業1回の計2回、静岡県立大学では1、3年生合同によるPBL授業1回を今年度は実施した。映像コンテンツの薬剤師研修への活用は、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学でシンポジウムやワークショップ、合同研修会として各1回実施された。

< 静岡県立大学 >

○ 地域防災演習

- ・静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて、防災演習を必修科目として行った。ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。

○ 地域医療アドバンスト実習（賀茂地区）

- ・静岡県賀茂地区において、本学学生2名（5年生、他大学学生3名）により5日間のアドバンスト実習を実施した。

○ 地域医療アドバンスト実習（川根本町地区）

- ・静岡県川根本町地区において、本学学生2名（5年生、他大学学生3名）により5日間のアドバンスト実習を実施した。

○ 地域医療アドバンスト実習

- ・本学学生（5年生）が沖縄北部地域および三重県尾鷲地域、岐阜県飛騨高山地域で行われた、地域医療に関するアドバンスト実習に参加した。

○ 薬学部1年生と3年生を対象とした地域医療演習

- ・本学学生（1,3年生）を対象にした地域医療演習を行った。地域医療アドバンスト実習に参加した学生から地域医療の状況や学んだことが報告された。さらに地域医療についての問題点について小グループ討議及び発表会を行った。

<和歌山県立医科大学>

○ 市民公開講座「最新の医学・医療カンファランス」

- ・教職員、学生、一般市民を対象としたオンライン公開講座「最新の医学・医療カンファランス」を医学部、保健看護学部と合同で実施しており、2024年度は3名の薬学部教授が講演を行った。

○ 医学部薬学部合同勉強会

- ・教員及び学生を対象として、年2回の医学部と薬学部の合同の勉強会を実施している。県立大学として地域医療に貢献することが使命であり、勉強会では医学部および薬学部における関連する研究成果の紹介・情報の共有化を行っている。学生のキャリア形成の推進にも資するものであり、「a. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」にも位置付けられる。

II-3. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラム以外の教育研究活動に関する成果報告

本事業に参画している国公立19大学においては、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づいて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師の養成に取り組んでいる。本事業は、国公立大学の薬学部及び大学院博士課程における基盤的な教育研究プログラムを推進するものである。したがって、参画大学において、本事業の目的と同様の高度先導的薬剤師の養成に向けて、本事業以外の文部科学省等の省庁や学術振興会等の助成事業や、大学独自に物的・人的リソースを活用することによって実施する取組や教育研究プログラムについても、各大学の裁量に任せて、このような事業の実施に係る規定に反しない範囲で、上記の本事業の5つのアドバンスト教育研究プログラムの一環、あるいは本事業の連携あるいは共同事業として位置づけ、実施することとした。

以下、参画大学の判断により、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラム以外の教育研究活動として実施した取組や教育研究プログラム、あるいは5つのアドバンスト教育研究プログラムには含まれるものの、別の特徴ある取組や教育研究プログラムとして取り上げたものについて、その事業報告を行う。

このような取組や教育研究プログラムとしては、

1. 各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラム
2. 学部卒業者、大学院博士課程修了者と連携した取組や教育研究活動及び卒業者、修了者を支援する取組や教育研究プログラム
3. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた取組や教育研究活動あるいは学部教育・大学院教育の質を向上させるための大学独自の取組や教育研究活動（組織・教育課程の改編、カリキュラム改訂、実務実習の実施体制・内容の変更等）
4. 大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究活動があげられる。

なお、事業の主幹校である大阪大学において実施したアドバンスト教育研究プログラム等の取組は、事業運営に関わるものもあるので、別途項を設けて報告するものとする。また、大阪大学主催の取組あるいは大阪大学を実施責任者とした取組についても、別項により報告する。

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係

上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

1. 各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラム

国公立19大学は、全国の北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国及び九州・山口の8地区に位置する。それぞれの大学は、各地域において薬学教育研究の中核大学として、薬剤師会や病院薬剤師会、さらには私立薬系大学との連携によって、優れた薬学人材の育成や、地域医療の発展に尽力・貢献してきた。各大学のこういった地域での教育研究活動とその評価については、薬学教育評価機構が実施した第三者評価の自己・点検評価書及び評価報告書に詳しい（中項目8. 社会連携・社会貢献、【基準8-1】教育研究活動を通じて、社会と連携し、社会に貢献していること）。ここでは、それらの中から、2024年度の本事業に関連する地域における教育研究活動、すなわち、参画大学が各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラムについて報告する。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2024年（令和6年）度】

<富山大学>

○ 砺波医療圏薬薬連携推進研修会（＊）

- ・学部生・大学院生を対象。地域の薬局薬剤師や病院薬剤師に対して、学術論文の読み方や書き方を大学教員から概説をする。2カ月に一度、実施をすることで、地域の薬剤師のスキルアップを目標とする。

○ 北新のシームレスながん医療を担う人材養成（次世代のがんプロフェッショナル養成プラン）

- ・大学院生を対象。我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公立の6大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、長野県看護大）で、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムを構築する。地域の薬剤師を対象として、インテンシブコースを開設し、履修をし、演習科目を開講している

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学生・大学院生および薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨

床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施する。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・学部生・大学院生を対象。日本病院薬剤師会より京都府立医科大学附属病院 薬剤部長・小阪直史先生にお越しいただき、病院薬剤師の業務内容や活動等について講演していただいた。約15名の学生の参加があった。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナー

- ・学部生・大学院生を対象。個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。そこで、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。2024年度も漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<九州大学>

○ 早期体験学習

- ・学部生を対象。地域に求められる薬剤師について理解し、今後の学修に対するモチベーション向上を目的として、臨床薬学科2年生を対象とした早期体験学習の一環として薬局見学や在宅医療に関する講義を福岡県薬剤師会と共同で実施し、薬局薬剤師と学部学生との質疑応答や意見交換を行った。

○ 薬学教育委員会研修会

- ・学部生を対象。薬局実務実習の指導薬剤師のみならず、6年制薬学部を卒業し薬剤師としての経験を活かし後進の指導を考えている薬剤師を対象に、指導薬剤師と学生へのアンケート結果に基づいた研修会を開催した。

<長崎大学>

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図るもの。2024年度は12月10日に定例会議を開催した。

<熊本大学>

○ 熊本県医療人育成総合会議

- ・学部生・大学院生を対象。熊本大学医学部・薬学部、熊本保健科学大学、熊本総合医療リハビリテーション学院、九州中央リハビリテーション学院、熊本県健康福祉部、様々な医療機関の関係者が実行委員となり、熊本のより良い医療・福祉の実現とその人材育成に関する講演会を開催している。本年度は、本学大学院薬学教育部の大学院生（博士課程1年）1名および薬学部薬学科学生（6年生）1名が『医療機関における働き方改革と医療人育成』に関するパネルディスカッションを行った。また、本学薬学部生・大学院生も多数参加し、議論に加わった。

○地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業

- ・学部生・大学院生を対象。熊本大学と崇城大学の強みと連携機関（九州保健福祉大学、各県病院薬剤師会・薬剤師会・行政）との関係を基盤に、南九州・沖縄地域のへき地・災害医療への対応ならびに薬剤師偏在の解消を目指し、自然とデジタルが調和した令和の薬剤師職能ロールモデルを提示するプログラムである。本年度は、「南九州薬剤師地域偏在検討会議」の実施、モバイルファーマシー実習、医療MaaS実習、地域の小学生を対象とした薬剤師1日体験学校、新型薬学シミュレーターのコンセプト提示などを行った。

<静岡県立大学>

○多職種連携演習（IPE教育）

- ・学部生を対象。静岡県立総合病院と協力し、薬学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 薬学会東海支部講演会【連携】

- ・学部生・大学院生を対象。東海地区の薬学部と薬剤師会及び病院薬剤師会が連携してワークショップやFD活動を実施しているまた、東海地区調整機構と実習事務の連携をすすめている。

○ 東海薬学教育コンソーシアム【連携】

- ・学部生を対象。静岡県立総合病院と協力し、薬学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 薬剤師生涯学習支援講座【連携】

- ・学部生・大学院生を対象。名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をオンライン形式で開催した。

○ 静岡救命連携演習【連携】

- ・学部生・大学院生を対象。全国禁煙アドバイザー育成講習会を学内で開催した。学生は、禁煙指導に必要な知識を習得し、日本禁煙科学会認定禁煙支援士（初級）の資格を取得した。必修科目として実施した。
- ・必修科目として実施した。

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業【連携】

- ・大学院生を対象。カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。

○大学病院薬剤師シンポジウムの開催【連携】

- ・学部生を対象。信州大学医学部附属病院薬剤部・薬剤部長の内藤隆文先生の講義の後、大学病院での薬剤師業務の実際というシンポジウムを行い、山梨大学、信州大学、浜松医科大学の医学部附属病院の薬剤師から講義と質疑応答の時間を持った。

○静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象に、医師や薬剤師を招聘し、最新の薬物治療を紹介する講義を実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬学教育コンソーシアム【連携】

- ・臨床薬学教育（特に実務実習）の情報共有と効果的な教育方法の開発（2024年度活動）

<学会でのシンポジウム共催>

2024年10月27日 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会（岐阜）FDシンポジウム共催

<2024年度東海地区薬系大学情報交換会>

2025年1月30日。東海地区薬系8大学の学部長ならびに臨床教育担当者による会議。会場は名古屋市立大学（オンライン・ハイブリッド）。東海地区薬系8大学学部長、学長、教務責任者、臨床教育責任者による情報交換を実施。

<FDワークショップ主催>

東海地区薬学臨床教育ワークショップ 東海薬学教育連携コンソーシアム 主催
「臨床における実務実習ガイドラインに準拠した実務実習・追加の実習を考える」

2025年3月15日（土）14:00～19:00（対面開催）

会場 名古屋市立大学薬学部 田辺通キャンパス

参加者：東海地区薬系8大学教員、東海4県薬剤師会、病院薬剤師会会員 計40名

<岐阜薬科大学>

○ 東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築【連携】

・学部生を対象。本事業では、現在の薬学実務実習では実施されていない薬剤師不足地域での一定期間のアドバンスト実習を行うことで、薬学部生の地域医療への理解を深め、薬剤師の地域偏在等の課題を見つめ、解決策を模索する。その成果を映像コンテンツとして制作し、そのコンテンツを薬学部下級生へのPBL授業として活用し、薬学部生全体の理解向上を目指す。また、都市部の薬剤師にも本コンテンツを活用して研修を実施し、薬剤師全体の課題として地域偏在解消に取り組む環境を醸成する。本事業は、地域偏在の課題解決の基本を創るとともに、薬学部で不足している臨床実習の補完ならびに地域で活躍する医療職のアピールを目的としている。

本年度は、東海地区4大学（名古屋市立大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学）が岐阜県飛騨高山地域、静岡県川根本町地域、三重県尾鷲地域、沖縄県北部地域に学生を派遣し、各地域の薬剤師会、病院薬剤師会と連携しアドバンスト実習を行った。また、その成果を大学の授業や薬剤師会での研修で報告した。2023年度から3年間の予定。

<和歌山県立医科大学>

○ (一社)和歌山県薬剤師/和歌山県立医科大学薬学部共催研修会【連携】

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年10月に病院・薬局の薬剤師や企業の研究者等を対象とした学術交流と新設した和歌山県立医科大学医学薬学総合研究科の案内を実施した。多くの関係者の参加があり、

和歌山県立医科大学における人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

○第2・3回産官学連携準備セミナー【連携】

- ・学部生を対象。地域薬学人材養成教育拠点形成プログラムの一環として、2024年7月および2025年1月に県内の公的研究機関、製薬・食品・化学等関連企業を招いて、研究紹介や面談・情報交換の機会として産官学連携準備セミナーを開催した。多くの関係者の参加があり、和歌山県立医科大学におけるの県内の産官学連携及び人材育成の拠点形成に資するセミナーとなった。

2. 学部卒業者、大学院博士課程修了者と連携した取組や教育研究プログラム及び卒業者、修了者を支援する取組や教育研究プログラム

国公立19大学は、全国の北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国及び九州・山口の8地区に位置する。それぞれの大学は、各地域において薬学教育研究の中核大学として、薬剤師会や病院薬剤師会、さらには私立薬系大学との連携によって、優れた薬学人材の育成や、地域医療の発展に尽力・貢献してきた。各大学のこういった地域での教育研究活動とその評価については、薬学教育評価機構が実施した第三者評価の自己・点検評価書及び評価報告書に詳しい（中項目8. 社会連携・社会貢献、【基準8-1】教育研究活動を通じて、社会と連携し、社会に貢献していること）。ここでは、それらの中から、2023年度の本事業に関連する地域における教育研究活動、すなわち、参画大学が各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラムについて報告する。

【2024年（令和6年）度】

<北海道大学>

- ・医療施設との共同臨床研究

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部の同窓会である東北大学薬学同窓会に、「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。

<富山大学>

- ・富山大学・薬窓会（薬学部・和漢研の同窓会組織）が卒業生の連絡先等は把握している。
- ・薬学科4年次開講科目である「病院薬学」の科目内にて、“薬剤師1日体験“を実施しているが、その事前説明を兼ねて、富山県内で病院薬剤師として活躍中の本学卒業生

を非常勤講師として、雇用し、病院薬剤師となった卒業生との交流をはかっている。

<金沢大学>

- ・各領域で活躍している卒業生を講師として招聘し、在学生に多様なキャリアパスを知る科目を設置。講師（卒業生）には、在学生のロールモデルとなることも期待。

<広島大学>

- ・卒業生が連携しての共同臨床研究の推進

<九州大学>

- ・病院実務実習において、6年制卒業生が指導薬剤師として実習生の指導を行っている
- ・病院薬剤部見学会において、本学の卒業生が業務内容の説明を行っている。
- ・薬学部同窓会の懇親会で、6年生卒業生と学部生、大学院生が交流できる機会を設定している。
- ・就職説明会を開催し、6年制卒業生が業務内容ややりがいについて説明した後、学と自由に懇談できる機会を設定している。

<熊本大学>

- ・「OB・OGキャリア講演会」において6年制卒業生の講演会、交流を実施
- ・「薬剤師のための医療薬科学研修会」（熊本大学薬学部教育委員会卒後教育部会）を開催。

<名古屋市立大学>

- ・薬学部独自の就職セミナーを毎年11月に実施しているが、そのセミナーで6年制卒業生を講師として招聘し、就職先での活動や課題、将来について講演をお願いしている。
- ・実務実習事前学習・コミュニティヘルスケア卒前教育コースの講師を積極的に依頼し、薬局業務、病院業務、行政等についての講義、実技指導等をお願いしている。。オンラインによる遠隔講義実施が容易になり遠方からの講師参加が可能となったため参画できる卒業生が増えている。

3. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた取組や教育研究プログラムあるいは学部教育・大学院教育の質を向上させるための大学独自の取組や教育研究プログラム（組織・教育課程の改編、カリキュラム改訂、実務実習の実施体制・内容の変更等）

薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）は、2013年に改訂され、2015年度入学生から適用されることになった。国公立大学を始め全薬系大学は、このコアカリ改訂に

合わせて自大学のカリキュラムの改訂を行い、入学生の受け入れに備えた。一方、文部科学省は「全ての大学等において三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする」とする省令改正を2016年3月31日改正、2017年4月1日施行で行い、各大学の建学の「精神や強み・特色等を踏まえた自主的・自律的な三つの方針の策定と運用の参考指針」として三つの方針の策定及び運用に関するガイドラインを示した。したがって、各薬系大学には、改訂コアカリの趣旨である学習成果基盤型教育を十分に反映させ、しかも大学独自の三つのポリシーに沿った教育を実践できるカリキュラムの構築が求められたことになる。本事業期間中は、国公立17大学（2020年度から19大学）は、このような背景のもと、カリキュラムの改訂を行い、それに基づいた薬学教育研究を実践したので、各大学における本事業と関連する「コアカリの改訂に合わせた取組や教育研究プログラム」として報告する。

また、このような研究教育活動の変革の中で、各大学においては学部教育及び大学院教育における人材育成の目標を達成するために、これまでの教育研究の実績と各大学で特色ある物的・人的リソースを活用した独自の取組や教育研究プログラムについても、それぞれの薬学教育プログラムの中に反映させ、実施してきた。そこで、本事業と関連するこれらの教育研究活動について、学部教育・大学院教育の質を向上させるための「独自の取組や教育研究プログラム」として報告する。

2018年度には、本事業に係る機能強化経費は基幹経費化され、本事業に係る教育研究活動は各大学において定着し、継続的に実施される位置づけとなった。そこで、5つの主なアドバンスト教育研究プログラムと共に、2016年度から2018年度に実施された上記のような教育研究活動は、原則、2019年度以降も継続な実施が求められることになり、実際に各大学の時限実施以外の取組や教育研究プログラムはこの期間継続的あるいは継続的かつ発展的に実施されている。さらに、2019年6月の国公立大学薬学部長（科長・学長）会議において国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会の設置が認められ、薬学教育における課題として以下の8点事項について解決に受けた提言・対応を行うこととなった。そこで、本項については、2023年度は参画大学に対して、これら8項目の課題に対する対応について報告を求めた。

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方
- (2) 実務実習実施体制
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応
- (4) 第三者評価への対応
- (5) 共用試験の在り方
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方
- (7) 臨床研修制度
- (8) その他

【2024年（令和6年）度】

<北海道大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・病院実習では同病院の薬剤部長兼任教授および診療補助従事者登録をしている教員が対応し、2～3週間毎の指導薬剤師とのミーティングにより進捗状況を共有し問題があれば迅速に協議・対応できる体制を構築
- ・薬局実習ではWebシステムを活用し、学生と担当教員、認定指導薬剤師と担当教員の緊密な連絡体制を構築

<東北大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・薬学評価機構からの指摘事項や新しいコアカリ（令和4年度版）の趣旨を踏まえたカリキュラム改善等に繋がるように学科プログラムレベルでの検討をしている。

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・東北大学薬学部卒業生としてふさわしい資質・能力等の習得に資する実務実習方法について、実務担当者間で議論を重ねている。実施環境等の様子を見ながら、学部内でのコンセンサス、次いで実習先指導薬剤師等との意見交換等を進められたらと考えている。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・全学の対応する委員会（薬学研究科からも参加）で検討されており、同時に薬学研究科内の会議（教務委員会、教授会等）で検討を重ねている。

(8) その他、

- ・薬剤師の地域偏在の解消に資する（薬剤師確保）ため、宮城県、宮城県病院薬剤師会、宮城県薬剤師会、東北医科薬科大学、宮城県医師会、宮城県高等学校長会と検討会を重ね、2024年度から「薬学生修学資金貸付事業」が開始されている。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/yakumu/syugakusikin.html>。

<千葉大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・モデル・コアカリキュラムの範囲を超える学修事項については、シラバスにアドバンスド項目との記載をした上で、積極的にカリキュラムに取り入れている。

(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、

- ・博士進学を強く希望する学生を、学校型推薦入試により薬学科へ受け入れている。

(8) その他

- ・標準修了年限未満で修了要件を満たした学生は、早期終了を認めている。

<富山大学>

- (2) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
- ・モデル・コアカリキュラムの内容はカバーできるように、学部内で情報共有を行っている。
- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・実務実習については、地域貢献大学であることを踏まえ、11週+11週間とし、本学附属病院だけでなく、市中病院・県内保険薬局でも実習を実施している。そのため、富山県の薬剤師会等の連携の強化をはかるために臨床薬学教育推進センターを2021年4月に設置した。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・令和4年入学より、薬学科の定員を70名とし、うち10名を総合型選抜とした(令和6年度より20名を総合選抜型とした)。同じキャンパスに附属病院・和漢医薬総合研究所を有していることをプライオリティとして、希望する一部の学生については医学部臨床系の研究室や和漢研での卒業研究での分属を可能としている。
- (4) 第三者評価への対応に関して、
- ・第三者評価に限らず、レベルが高く、適切な薬学教育がなされるために、例年、多々の教育事項に対して、評価・見直しを行い、改善している。
- (5) 共用試験の在り方に関して、
- ・CBTの実施委員長は、全教授の持ち回りとしている。OSCEについては、全薬学部教員が参加して実施している。
- (8) その他
- ・富山大学は地域に貢献する大学として、富山県の病院や行政に優秀な人材を輩出するミッションを有している。そのために、国立大学として、初めての地域枠での総合選抜入試を実施し、令和6年4月には1期生が入学した。

<金沢大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・県薬、県病薬、調整機構と連携した大学主導の実務実習スケジュールの構築。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・研究者養成を目指した高大院接続入試および博士一貫コースの設置。
- (4) 第三者評価への対応に関して、
- ・第三者評価に対応するための委員会の設置。
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・本学ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラムなどの博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクトへの参画、博士課程学生に対する各種奨学金制度（学内及び学部内）

<京都大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方及び (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における薬局・病院・大学の連携強化を目的とし、実務実習実施体制としてグループ化を取り入れている。大学、病院と

その近隣の薬局を一つのグループとし、グループ単位での協議会を開催し、2019年度に開始されたモデル・コアカリキュラムに準拠した実習の振り返りや、さらなる実務実習の質向上を目指した協議を行った。

- ・症例シナリオを実装した人型シミュレータ「SCENARIO」（京都科学）を導入し実務実習前の医療実務事前学習（4年次必修）において、患者アセスメントに関わる演習を実施した。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・京都大学の特色入試では、高大接続と個々の学部教育を受ける基礎学力を重視し、
① 高等学校での学修における行動と成果の判定 ② 個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定を行い、①と②の判定を併せて、志願者につき高等学校段階までに育成されている学ぶ力及び個々の学部教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜する。薬学部の特色入試も、京都大学全体での特色入試方針のもとに行っている。高大接続を重んじるという観点から、高等学校での学修における行動や成果を丁寧に評価するため、「調査書」に加え高等学校長等の作成する「学業活動報告書」により志願者が受験科目以外にどういったことを学んできたか、どういった活動を実践してきたかを見る。さらに、志願者が作成する「学びの設計書」をもとに、高等学校での活動内容から京都大学薬学部において何を学びたいのか、卒業後どういった仕事に就きたいのかといった、志願者自らの学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価する。さらに、学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、書類審査に加えて、大学入学共通テストの成績、薬学部独自の能力測定検査、論文試験、面接試験、口頭試問を行う。

②

<岡山大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・モデル・コア・カリキュラム対応実習における形成的評価に関して、従来、岡山大学病院独自で作成・使用されてきたルーブリック評価表からの外挿方法を確立し、また、薬局実習委員会で県薬剤師会と共同で作成した連携ツールと深堀シートを活用した薬局と病院との情報共有を行っている。

(2) 実務実習実施体制及び(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・実務実習実施体制および第三者評価への対応として学部長も含めて基礎系教員を含む全教員で薬局実務実習生の実習進捗状況のWebでの見守りと施設訪問を行う責任教員体制を構築し、薬学部全教員で実務実習中の実習生の指導を行っている。

(8) その他に関して、

- ・1, 2年次に早期に研究体験できる「薬学研究入門」を実施している。

<徳島大学>

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・本学では2021年度入学生より6年制のみとなり、創製薬科学研究者育成コース（30人）と先導的薬剤師育成コース（50人）が設置された。先導的薬剤師育成コースはさらに研究型高度医療薬剤師育成（40人）と研究型地域医療薬剤師育成（10人）に分かれる。現在、これらのコースに合わせて、特色ある教育プログラムや実務実習実施体制の構築、大学院博士課程の充実化を進めている。

<九州大学>

(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、

- ・研究マインドをもった薬剤師の養成を行うために、学部1年次から研究室での研究を直接見聞することができるようなカリキュラムを作成し、令和4年年度入学者から開始した。

<熊本大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（クリクラ）を実施。
 - ・独自の全学年を通したe-ポートフォリオを導入。
- (8) その他に関して、
 - ・PROGテストの実施。
 - ・マナー、人材育成の講義を実施
 - ・アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施。

<名古屋市立大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・東海薬学教育コンソーシアムでは 東海地区の薬系8大学学部長、教務主任、臨床教育担当者の会議を行い、カリキュラム、実務実習、共用試験などについて意見交換ならびに情報共有するとともに、薬剤師会や病院薬剤師会との連携をはかる協議を行っている。また 東海地区の臨床系教員と薬剤師会、病院薬剤師会とのワークショップを開催し、実務実習などのレベルアップに向けての提言などをまとめている。

<静岡県立大学>

- (8) その他に関して、
 - ・長期履修制度を導入。
 - ・社会人大学院生の積極的な受入

<岐阜薬科大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・岐阜大学病院・岐阜市民病院・岐阜大学病院の敷地内薬局に臨床系教員を配置し、大学・医療機関で密に連携して5年生における病院・薬局実務実習を行っている。岐阜における実務実習の先進的な実務実習のモデルとなっており、全国に対しては論文・学会発表等でその取り組みを報告している。

<和歌山県立医科大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
 - ・和歌山県立医科大学薬学部は、2024年度は薬学部開設4年目であるが、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に合わせて、3ポリシーの見直し、これに合わせたカリキュラムと時間割の改訂を行い、2024年度入学生から適用した。
- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・和歌山県立医科大学薬学部では、2024年度から実務実習を開始した。実務実習の開始に伴い、近畿地区調整機構の学生の実務実習施設への配属指針に従って、和歌山県病院薬剤師会及び薬剤師会との連携によって、県内の実務実習施設の確保や実務実習の在り方について検討した。

(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・第2期第三者評価の評価基準に合わせて、教育プログラムの質向上に向けて入試制度やカリキュラムの検証を行った。完成年度内で改善できる点については順次着手する。
- ・薬学教育評価機構が求める新設学部4年目の自己点検・評価の準備に着手した。

<山口東京理科大>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方

- ・完成年度を迎えたこととモデル・コアカリキュラム改訂とが合わさり、大幅なカリキュラムの見直しを実施した。併せてカリキュラムツリーを作成し、シラバスに科目間の繋がりを記載することで、体系的な教育課程の確立に取り組んでいる。

(4) 第三者評価への対応

- ・「薬学教育自己点検・評価委員会」「薬学部自己点検・評価実施委員会」を設置し、学位プログラムの点検、ポリシーの見直し、DPの達成度を判定するためのルーブリックの策定等に取り組んでいる。

(5) 共用試験の在り方

- ・OSCE、CBTともに学科内で独自の委員会を立ち上げている。OSCEにおいては、全薬学部教員とともに多くの事務職員が参加し、教職協働で実施している。

4. 大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究プログラム

大学院博士課程進学者数は、2006年度の薬学6年制1期生が卒業生し大学院に進学する2012年度以降、多くの国公立大学で入学定員が満たされない状況が長く続いており、回復の兆しが見えない。このままの状況が続けば、社会が求める大学院4年制博士課程修了者、すなわち薬剤師免許を持った薬学博士が十分に輩出することができず、例えば、近い将来、薬学教育研究を担う大学教員や、また世界に伍する創薬研究や臨床研究、最先端の医療を主導できる高度薬学人材の大幅な減少が予想され、ひいては学問領域としての“薬学”の大きな衰退が懸念されるところである。

国公立大学では、このような薬学6年制導入による大学院博士課程進学者数の大幅な減少を危惧し、早急に対応すべき課題として前事業においても、キャリアアップワークショップ等の開催により、学部生の博士課程進学モチベーション向上に努めてきた。しかし、大きな促進効果は認められず、本事業においても引き続き課題解決に向けた検討を続けてきたところである。

先に示した通り、2019年度に設置された国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会においても、「(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方」として取り上げ、最重要課題として検討を行っており、その結果を本事業に反映して、前事業に増して積極的な取組や教育研究プログラムを実施しているところであるが、これらは別項目で報告することとし、ここでは前事業以来の参画大学における教育研究活動を「大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究プログラム」として報告する。

【2024年（令和6年）度】

＜北海道大学＞

- ・オンラインによる入試相談会。

＜東北大学＞

- ・毎年の薬学科ガイダンスにおいては、博士課程の説明を行っている（3年次、4年次、5年次、6年次）。さらに6年制学生が配属した分野において、博士修了後のキャリアパス、社会からの国立大学修了生への期待、研究の魅力等をお話しする機会をつくっている。博士課程（薬学履修）において短期修了の要件を検討し、開始した。博士後期課程・博士課程大学院生への経済的支援を全学的に行い、JST事業次世代研究者挑戦的研究プログラム等から支援（生活費・研究費）を受ける学生が出ている。

＜千葉大学＞

- ・革新医療創生CHIBA卓越大学院：令和2年4月～。国内外の一流研究機関および国内企業と連携し、「クラスター制CHIBA教育システム」を構築して、様々なクラスターに所属する教員の協力の上に、「俯瞰力、柔軟な思考、挑戦する意欲、レジリエンスそしてイノベーションマインドを持って革新医療創生に取り組む人材」を養成することを目標としている。
- ・千葉大学博士課程教育リーディングプログラム：免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム：将来、国内外の大学や研究所のみならず製薬企業等で新しい治療薬や治療法の開発を推進するリーダー、大学病院などの基幹病院で先端医療の開発・実践を統率する責任者や医療行政機関の指導者として活躍できる人材の養成を目指すプログラム。
- ・千葉大学 全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト：我が国の超高齢少子化や大規模災害等の課題，新規感染症等の人類共通の課題に迅速に対応し、様々な研究分野やセクターでイノベーションを創発する博士人材を養成するプログラム。
- ・千葉大学大学院生等海外派遣プログラム：大学院生、医学部・薬学部の5・6年生を対象に、海外での共同研究やフィールドワーク、国際研究集会への参加などの活動を支援するプログラム。
- ・その他：日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2、PD1、RPD、CPD）、日本学生支援機構（JASSO）奨学金変換免除、日本薬学会長井記念薬学研究奨励金、千葉大学ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントなどがある。

＜東京大学＞

- ・博士課程入試の説明会を実施している。

- ・博士課程進学者に対する奨学金プログラム（若干名）。

<富山大学>

- ・SPRING事業が継続され、博士課程の大学院生には、18万円/月が支給され、年間50万円の研究費が付与される

<京都大学>

- ・大学院教育支援機構プログラム・大学フェローシップ事業・沢井奨学金・藤多仁生奨学金・薬学研究科ティーチングアシスタント制度(大学院生への経済支援・奨学金制度)

<岡山大学>

- ・医療機関，大学等へPRポスター（試験情報）の配布，今後の志願者増への取組を検討すべく，外部ステークホルダーへのアンケートを実施。在学生へのオリエンテーションでの学務委員による啓発。大学院進学説明会の実施。

<広島大学>

- ・学部1年次の早期研究室訪問、早期研究入門（希望者は2年次以降も継続可）、学部1年生に向け講義「薬学概論」のうち，1コマ分を「博士課程で学ぶということ」と題して，外部講師により授業を行う。

<徳島大学>

- ・大学院説明会

<九州大学>

- ・臨床薬学科4年～6年及び修士・博士学生を対象としたキャリアアップセミナーを開催。

<長崎大学>

- ・本研究科博士前期課程生命薬科学専攻を修了し博士課程に進学した者については、条件を満たすことによって早期修了の制度を指導している。

<熊本大学>

- ・九州圏内の大学、高等専門学校にポスターを配布した。ホームページによる広報活動を実施している。

<名古屋市立大学>

- ・経済的支援として文科省、JSTのフェローシップ、RA・TAを実施している。また、

独自奨学金の支給により、社会人入学者の学費負担を軽減し、附属病院薬剤部と連携し、実務家教員育成につなげている

<岐阜薬科大学>

- ・競争的資金が取れなくても大学と同窓会が主体となって、返還不要の進学支援資金を一人当たり年額約102万円支給し、進学意欲の向上に努めている。この取り組みにより、博士課程在籍者は総定員20名を大幅に超える44名となっている（博士後期課程を合わせると66名が在籍）。

<和歌山県立医科大学>

- ・現在実施されているあるいは実施した取組
(概要：2024年度の医学薬学総合研究科開設時には、パンフレットの配布やホームページの充実に取り組み、新研究科のPRを行うとともに、医療関係者が集まる会議等において、大学院の概要を説明する機会を確保するなど、積極的な広報活動を行った。
学生募集に関しては、下記取組を実施し、入学者の確保に努めた。
- ・募集要項を各医局に配付するとともに、プログラム分科会において各所属長に周知し、協力を依頼した。
- ・博士課程の募集要項を全国の大学（医学部・歯学部・薬学部）に送付した。また博士前期課程・博士後期課程の募集要項を県内外の病院や協会、大学・専門学校等に対して送付した。
- ・英語版大学院HPに募集内容を掲載するとともに、海外提携校19校に対して募集の案内を行った。
- ・学内のエレベーターなど目に留まりやすい箇所に募集に係るポスターを掲示した。また、長期履修制度や夜間講義を引き続き実施するとともに、新たに全ての講義について遠隔配信を導入し、社会人学生が仕事と学問を両立できる環境を整備した。

II-4. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において大阪大学の運営、企画によって実施した参画大学連携による教育研究活動に関する成果報告取組

大阪大学は、「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の主幹校として、参画大学連携によって実施する教育研究プログラムの企画とその実施責任者としての運営を行ってきた。本事業では、参画大学は、高度先導的薬剤師の養成に向けて、それぞれの物的・人的リソースを活用して、「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」を主軸に、「国際医療薬学教育研究推進プログラム」、「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」、「地域医療教育研究推進プログラム」に係る取組や教育研究プログラムを実施し、また各地区の薬学教育研究の拠点として地域医療の充実・発展への貢献を図る「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」を推進する。主幹校が企画・実施すべき参画大学連携教育研究プログラムとしては、これらのアドバンスト教育研究プログラムの成果を公開し、その普及・定着化を図るための定期的なシンポジウム等の開催、これらプログラムを補完し、その人材育成の目標の達成を図る合同研修会・キャリア形成支援ワークショップや国内外で実施する学生自主研修プログラム等がある。

ここでは、

1. 主幹校企画シンポジウム
2. 合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ
3. 学生自主研修プログラム

について、その内容と成果について以下の通り報告する。

1. 主幹校企画シンポジウム

毎年3月末に開催される日本薬学会年会及び関連学会において、本事業に関するシンポジウムを企画・開催した。本シンポジウムは、本事業の成果を定期的に報告すると同時に、参画大学、さらには私立大学におけるその普及と定着化を図るものである。

【2024年（令和6年）度】

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ

【開催日】

・2024年9月21日

【場 所】

・ハイブリット開催（大阪大学）

【テーマ】

「地域社会に貢献できる高度薬学人材とは」

[オーガナイザー]

・有澤 光弘（大阪大学）・平田 収正（和歌山県立医科大学）

[ワークショップの趣旨]

令和3年6月に厚生労働省から「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」が公表され、薬剤師の従事先に業態ならびに地域偏在があり、偏在を解消するための取組が必要であることが提言された。国公立大学薬学部は全国8地区でそれぞれ地域の薬剤師養成の中核となる存在であり、本事業において取り組むべき課題である。また、薬学部6年制の導入以来、国公立大学では大学院博士課程への進学者が大きく減っている。このままでは近い将来最先端の創薬研究や医療を担う薬剤師免許を持った博士、すなわち高度薬学人材が激減することが危惧されることから、博士課程進学者を増やすことは国公立大学が取り組むべき喫緊の課題と言える。

そこで本ワークショップでは、第1部のミニシンポジウムでは、国公立大学がこれらの課題の解決に向けて協働して取り組むために、「臨床研究と実務実習について」講演、情報の共有化と意見交換を行い、問題意識を高めた。また第2部のキャリア形成ワークショップでは、国公立の大学や研究所、医療機関で活躍する6年制博士課程卒業生による講演と、大学院生、学部学生、教員による薬学博士人材の育成とキャリア形成に関する討論を通して、学部生の博士課程進学に向けたモチベーションの向上を図り、学部生、大学院生のキャリア形成、特に大学等で薬剤師免許を持った博士として薬学教育研究を主導する意識の向上を図った。

[プログラム]

第1部 臨床研究（午前）

- : 9:30- 9:35 ごあいさつ 大阪大学大学院薬学研究科長 教授 小比賀 聡
- : 趣旨説明 大阪大学大学院薬学研究科 教授 有澤 光弘
- : 9:35- 9:55 「薬剤師の偏在と確保対策について」
厚生労働省医薬局総務課 遠阪 聡子
- : 9:55-10:55 実務実習における新しい取り組み
- ① 静岡県立大学薬学部 教授 内田 信也
- ② 大阪大学大学院薬学研究科 教授 池田 賢二
- ③ 広島大学 教授 小澤 光一郎
- : 11:00-11:40 「ビッグデータ・DXを活用した薬剤師業務・研究・教育および地域医療への貢献」
岡山大学病院 教授 座間味 義人
- : 11:40-11:45 まとめ

第2部 キャリア形成ワークショップ（午後）

- : 13:00-13:05 趣旨説明 和歌山県立医科大学薬学部 教授 平田 収正

- : 13:05-13:25 「薬系博士の現状・課題・未来」
文部科学省高等教育局医学教育課長 俵 幸嗣
- : 13:25-13:35 在学生の大学院進学への促進
和歌山県立医科大学薬学部 教授 平田 收正
- : 13:35-15:15 国公立大学出身薬剤師博士の多様な活躍
- ① 和歌山県立医科大学薬学部 助教 伊藤 雄大
 - ② PMDA 讃岐 祥一
 - ③ 金沢市議会議員 宇野 裕基
 - ④ ペプチドリーム株式会社 由澤 敦史
 - ⑤ 京都大学医学部附属病院薬剤部 助教 重面 雄紀
- : 15:20-17:35 キャリア形成に関するグループ討議
作業説明 10 分 大阪大学大学院薬学研究科 特任講師 村岡未彩
スモールグループディスカッション 80 分
発表と質疑応答 45 分
- : 17:40-17:55 まとめ (敬称略)

[参加者]

・対面60名(学生27名、教員34名)オンライン36名(学生12名、教員24名) 合計96名

○ 薬学会145年会一般シンポジウム (S44)

[開催日]

2025年3月29日

[場 所]

福岡国際会議場メインホール3F

[テーマ]

「日本の創薬力強化に貢献する薬学教育」

[オーガナイザー]

有澤 光弘 (阪大院薬)、平田 收正 (和歌山県医大薬)

[シンポジウム要旨]

国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会では、大学院進学促進・薬剤師博士の養成と薬剤師の地域偏在解消を主な取組課題として検討を行っている。本シンポジウムでは国公立大学高度先導的薬剤師養成プログラムが主体となり、日本の創薬力強化に貢献する薬学教育をテーマに取り上げ、創薬力の教育的側面について産学官で議論する。具体的には「日本の創薬力：現状・課題・未来」について文部科学省高等教育局医学教育課から基調講演をいただいた後、創薬と治療の最先端を担う製薬会社と大学病院薬剤部から薬学教育に求めるものをそれぞれご紹介いただく。また、創薬力強化を狙う大学の新しい取組についてもご紹介いただき、日本の創薬力強化のために必要な薬学教育について議論を深めたい。

[プログラム]

S44-1 日本の創薬力：現状・課題・未来

俵 幸嗣（文部科学省高等教育局医学教育課）

S44-2 創薬力を強化するための薬学部の役割(製薬企業からの視点)

奥田 修（中外製薬）

S44-3 未来の創薬を支える病院薬剤部における薬学教育

座間味 義人（岡山大病院薬）

S44-4 創薬を加速させる6年制薬学教育-大阪大学薬学部の取組-

齊藤 達哉（阪大院薬、阪大薬、阪大MEIセ、阪大感染症拠点）

S44-5 創薬力を強化するための薬学部の取組(広島大学GMP教育研究センター)

小澤 光一郎（広島大院医系科学）

2. 合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ

（1）厚生労働省・独立行政法人医薬品医療機器総合機構

本事業の一環として、厚生労働省、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）のご厚意により、国公立大学の学生を対象とした研修会を実施していただいた。本事業の大学連携によって実施する教育研究活動として、厚生労働省PMDAへの就職を希望する学生、業務に興味がある学生を対象として、ハイブリット形式で2日間の日程で研修を行った。両所の人事担当の方からの事業に関する説明や所内の見学だけでなく、若手職員との懇談や意見交換の場を設定いただいた。

【2024年（令和6年）度】

[開催日]

・2025年2月27日、28日

[参加大学]

・北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、富山大学、静岡県立大学、岐阜薬科大学、名古屋市立大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、長崎大学、熊本大学、山口東京理科大学、和歌山県立医科大学、大阪大学

[参加者]

・対面39名、オンライン39名

[概要]

● 2月27日

<研修会>

厚生労働省

- ・概要説明、質疑応答、省内見学、座談会
- ・懇親会(夜) 希望者の学生と厚労省職員との懇親会

● 2月28日

PMDA

- ・概要説明、質疑応答、見学、座談会

3. 学生自主研修プログラム

参画大学からの応募により、学部生や大学院生が自らの研究能力の向上やキャリア形成、国際性の涵養を目的として企画・参加する国内や海外での研修の機会を与えるプログラムである。大学間の連携によって実施する企画を優先的に採択して、実施した。

【2024年（令和6年）度】

（1）海外研修プログラム

○長崎大学 ニューメキシコ大学短期研修プログラム

【日程】2025年2月14日～23日

【研修先】 アメリカ合衆国・ニューメキシコ大学、同付属病院、薬局等

【参加者】学生3名

【プログラム・研修等の内容】

①本プログラムは

- 1、海外での臨床薬剤師の活躍を見学し、日本との差異を体験することで、高度先導的薬剤師の養成に資すること
- 2、英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的な態度などを身に着けることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的として実施しているもので、今回で 5 回目の実施となった。

研修の内容はニューメキシコ大学薬学部における講義の聴講や演習への参加、学部長との面談、薬剤師および Pharmacist Clinician の役割に関するセミナー聴講、ペインセンターでの業務見学、UNM 病院薬剤部見学、地域の薬局見学、双方向の研究紹介、Project ECHO（多職種協働オンラインカンファ）への参加、A-Fib screening event の体験、キャンパスツアー、毒性管理センター訪問などであった。

参加学生は、ニューメキシコ州における地域の特性や保険制度などの医療事情を背景とした薬剤師の役割を十分理解していた。また、オンラインを活用した医療・教育システム先進的な取り組みなどを通じて、日米の薬学教育や薬剤師の職能の差異を体験した。

（2）国内研修プログラム

○ 熊本大学 一般社団法人メディポリス医学研究所 メディポリス国際陽子線治療センター研修

[日程] 2024年11月14日～15日

[研修先] 一般社団法人メディポリス医学研究所、メディポリス国際陽子線治療センター
てらわき薬局城西

[参加者] 学生13名、講師4名、教職員1名

[プログラム・研修等の内容]

医療の革新的な進歩により、多様な新規がん治療法が開発され、がん患者が様々な治療戦略の中から最適な治療法を選択できる時代になりつつある。本研修では、薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」のご協力のもと、下記の通り研修を実施した。

【講演会】

- ・荻野尚 先生（センター長）：センターの概要説明・陽子線治療の原理
- ・湯之前清和 先生（事務局長）：センターにおける薬剤師の役割
- ・持留隆伸 先生（センター薬剤科）：薬剤師によるキャリアパス
（先輩薬剤師の立場から参加学生との意見交換会）

【施設見学】

- ・陽子線照射回転ガントリー治療室・患者処置室での陽子線治療デモ
- ・患者専用宿泊施設紹介（メディカルリゾート【HOTELフリージア】）

【てらわき薬局城西・薬局見学】

- ・井上鈴菜先生による薬局見学、近未来の薬剤師像についての意見交換

○ 熊本大学 ニューメキシコ大学研修（オンライン）教員対象

[日程] 2024年11月～2025年3月

[研修先] ニューメキシコ大学薬学部

University of New Mexico College of Pharmacy（オンライン）

[参加者] 教員（1名）、講師（2名）

[プログラム・研修等の内容]

薬学教育の急速なグローバル化が進む中、国際的な活躍が期待される高度先導的薬剤師の育成を推進するためには、学生の国際交流の推進や語学力・コミュニケーション力の強化に加え、指導教員のグローバル化・指導スキルの向上を目的とした新たな高度薬学教育プログラムの開発が必須である。本研修では、米国における臨床薬学研修に関して豊富な実績のあるニューメキシコ大学薬学部（UNMCOP）との連携により、グローバル薬学教育環境の整備・強化を企図とした臨床薬学研修プログラムの構築を目的とし、UNMCOPが提供するInternational Teaching Certificate Program（ITCP）プログラ

ムを教員が実施することで、海外連携教育プログラムの推進・発展を目指す。

○静岡県立大学 臨床研究実施能力醸成に向けた教育手法開発についてのワークショップ教員対象

【日程】 2024年7月29日~30日

【研修先】 静岡県立大学薬学部

【参加者】 ・特別講演：37名（学部生8名、大学院生9名、教員20名）

・ワークショップ：14名（学部生6名、大学院生1名、教員6名、静岡県薬剤師会1名）

・発表会：18名（学部生9名、大学院生1名、教員7名、静岡県薬剤師会1名）

【プログラム・研修等の内容】

1日目

10:15 イントロダクション、コーディネーターによる趣旨説明

10:30 基調講義 "Healthcare Horizons: Past, Present, and Future of Pharmacy
Quality"

Dr. Middletonによる"Real world" quality improvement skillsの講義

<Workshop for the clinical research methodology education>

13:00 Section I : Section I: What are we trying to accomplish?

説明 (Dr. Middleton & コーディネーター) およびProject time 1

15:00 Section II: How will we know that a change is an improvement?

説明 (Dr. Middleton & コーディネーター) およびProject time 2

2日目

9:00 Section III: What changes can we make that will result in improvement?

説明 (Dr. Middleton & コーディネーター) およびProject time 3

13:00 Preparation for presentation (Students)

14:30 Section IV : Presentation of class reports in the workshop by students

Discussion with all participants

作成したプロジェクトの発表会およびDr. Middletonからのコメント。

参加者および見学者全員による日本における臨床研究手法の教育の在り方に関する討議。

15:30 閉会式

II-5. 大阪大学OUマスタープラン2027に特に貢献した教育研究活動に関する報告

大阪大学は、第4期中期目標期間に加え、さらにその先も見据えた中長期的な経営ビジョンであるOUマスタープラン2027を掲げており、この中で「教育基盤：知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境の整備」、「研究基盤：自由な発想が芽吹く研究環境の構築」、「コロナ新時代に対応する情報基盤整備」、さらには「グローバル戦略：世界規模の課題に立ち向かうグローバル人材の育成と学術研究の推進」を進めている。本事業は、こういった目標への到達に向けた教育研究における取組を具現化するものであり、国公立大学が担うべき薬学領域、医療における社会的な責任を自覚し、社会とともに歩み、活力ある社会を創出するための人材の育成を通してOUマスタープラン2027に貢献するものである。

II-2から4で報告した2024年度本事業の成果のうち、特にOUマスタープラン2027の実現に貢献したと考えられるプログラムを以下に取り上げる。括弧内に、特に該当するOUマスタープランの戦略ならびに取組を記載した。なお、本項では、タイトルあるいは概要のみの掲載とした。詳細は実施大学のホームページを参照いただきたい。

<北海道大学>

学部共通教育体制と国際性涵養教育体制の強化 に関連して

●新渡戸カレッジ

大学院教育支援体制の強化 に関連して

●薬学部学生における大学院授業科目の早期履修制度の実施

自主性、指導性、協調性などを培うための課外活動・キャリア支援・修学支援体制の強化
に関連して

●博士課程学生向けのフェローシップ

数理・データ情報科学教育の強化と全学体制の構築 に関連して

●数理・データサイエンスセンター主催学生向けプログラム

<千葉大学>

教育研究活動を支える財源の確保

事務職員の戦略的な採用・育成・配置

本取組による予算により、実務実習やその他の教育・研究に必要な人員、備品を購入し、先導的薬剤師養成のための教育・研究が実施できた。

<富山大学>

[学生の国際性を涵養する短期海外派遣体制の整備充実]

国際交流事業で南カルフォルニア研修を実施した。

[地域・社会・市民との共創を通じたブランドの醸成]

総合選抜型入試による地域枠、博士課程進学研究学生養成枠の設置

(前者は令和6年度入学者から、後者は令和4年度入学者から)

県内高校へ薬学部についての説明を行い、それらの声をもとに国立大学薬学部6年制と

して、地域枠の設置を行った。これらは、博士課程進学者のための総合型選抜を行うことも地域の病院・企業、さらには、行政からの要請によるものである。

<金沢大学>

〔社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開〕

地方行政と連携し、地域住民の健康増進活動および国保データベースを基盤とした医療ニーズの探索に取り組んだ。

<京都大学>

〔薬学研究科DEI推進委員会の主導による、女性専用多目的室設置等の環境整備。〕

〔大学院生への経済支援・奨学金制度（藤多仁生奨学金・薬学研究科ティーチングアシスタント制度等）の充実〕

<広島大学>

〔コロナ新時代に対応する情報基盤整備（OUDXイニシアチブ）〕

広島大学は、2020年度補正予算「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」にて採択された「DXで拓く学びのパラダイムシフト～ニューノーマルの新たな教育実現に向けた「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)環境の構築～」の事業の一環として、医療系学生を対象とした「VRシステムを利用しOSCE練習ソフト」、「VRシステムを利用したIVRシミュレーター」、「教育効果の向上に資する薬学デジタル教材」を開発した。これらの教材を大阪大学で使用するにより、大阪大学全体のデジタル・トランスフォーメーション（OUDX）はさらに充実すると考えられる。

〔社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開〕

広島大学薬学部は、社会連携活動の一つとして、広島県薬務課、広島県病院薬剤師会、広島県薬剤師会と協働し、広島県内の中山間地域及び島嶼部での薬剤師安定配置システムの構築に着手している。このシステムは全国への展開を目指したものであり、「ステークホルダーとの信頼関係を醸成し、活性化させるブランディングの展開」に資するものであると考えられる。

<徳島大学>

国際医療薬学教育研究推進プログラムの「2024年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部症例検討ビデオカンファレンス」が、「OUマスタープラン

【主要取り組み】国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充」に一部該当すると思われる。

<九州大学>

〔DXを活用した教育プログラムの実施〕

電子処方箋、オンライン服薬指導など昨今の世の中の急速な変化に対応するため、関連する知識に関する講義とオンライン服薬指導システム（ハートライン）を用いた演習を実施した。

<長崎大学>

[多様な人材が輝くグローバル戦略と Diversity & Inclusion の深化へ貢献]

本学薬学部は、2025年3月、大学間学術交流協定を締結している米国ニューメキシコ大学薬学部の正規授業である国際地域医療実習（実習生2名と引率教員1名）を長崎にて行った。長崎大学病院、市内薬局、上五島地区の離島実習施設にて2週間の実習を行い、その間本学薬学部教員11名並びに地域薬剤師数名が留学生の指導にあたった。さらに、本学薬学部学生が参加できる多数のイベント（本学薬学部茶道部による歓迎会、本学学生による市内観光案内と久光製薬工場見学案内、留学生と本学学生による米国の日本の薬学教育に関する発表、留学生による長崎での学びに関する報告）を実施し、双方の教員並びに学生の交流を促した。のべ46名の学生が参加した。このように異なる国や地域の薬学部が協力し国際的な教育ネットワークを構築することによって、留学生はもちろんのこと、異文化や異なる言語に触れたい学生や国際的な薬学教育の経験を積みたいという学生に、より豊富な教育環境を提供した。このようにして、本学は、多様な人材が輝くグローバル戦略と Diversity & Inclusion の深化へ貢献している。

<熊本大学>

「メディポリス国際陽子線治療センター研修」

【重点戦略】学外の様々なステークホルダーとの連携を活用した人材育成

[主要取り組み] インターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学的展開ならびに企業・大学相互メリット型リカレント教育体制の構築

「International Teaching Certificate Programの受講に基づくカリキュラムプランニングワークショップ」

【重点戦略】学外の様々なステークホルダーとの連携を活用した人材育成

[主要取り組み] 国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充

「薬学教育および薬剤師職能の動向に関する国際シンポジウム」

【重点戦略】学外の様々なステークホルダーとの連携を活用した人材育成

[主要取り組み] 国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充

「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」

【重点戦略】 ブレンデッド教育を支える学修環境の高度化（主として教育基盤に関連）

[主要取り組み] ブレンデッド教育、オンライン・エンrollmentを支える安心・快適な情報インフラの整備

「薬剤師職能振興研究助成にかかる事業」

【重点戦略】学部・大学院教育内容のさらなる充実化

[主要取り組み] 健康・スポーツ科学教育研究連携体制の構築及び、

【重点戦略】 ブレンデッド教育を支える学修環境の高度化（主として教育基盤に関連）

[主要取り組み] ブレンデッド教育、オンライン・エンrollmentを支える安心・快適な情報インフラの整備

<静岡県立大学>

[グローバル人材の育成を目的とした国際交流]

本事業をもとに米国（アリゾナ大学、ワシントン大学附属病院）への学生派遣を行っている。またアリゾナ大学薬学部学生の国際実習の受け入れを行い、相互交流を進めている。

[地域活性化と薬剤師偏在を解消するための地域医療アドバンスト実習]

薬学部5-6年生のアドバンスト実習として、地域を訪問しその医療現場においてアドバンスト実習を行い、その成果を下級生に伝えることにより全学生が地域医療に関心を持てるような事業を行っている。

II-6. 国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラムの在り方について

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業は、国公立19大学の連携によって、2016年（平成28年）度から継続して、主な5つのアドバンスト教育研究プログラムを始めとする様々な教育研究活動を行ってきた。実施した教育研究活動とその成果は、本報告書のII-2～II-5に示した通りである。

国公立大学が養成する高度先導的薬剤師に特に求められる資質・能力として、優れた研究能力があり、本事業が進める人材育成における最重要目標と言える。これは5つのアドバンスト教育研究プログラムの中の「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」が目指す“高い倫理観・使命感と卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導する薬剤師の養成”にほかならず、その成果の一つの指標が「研究論文」の発表数と言える。これについては、6年制学科学部生と4年制博士課程大学院生の学術論文発表数と学会発表数を下記の「学部生及び大学院生の研究活動の成果」にまとめている。学術論文や学会発表に係る参画大学からの報告数には大学間の差が大きく、正確な動向をつかむためにはさらに精緻な調査が必要であるが、今後本事業の成果として学部生、大学院生の研究能力が向上し、こういった数値指標が上昇することを期待したい。

現在の薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）は、2013年に改訂され2015年度入学生から適用された。現コアカリによって学部教育を修了した卒業生は、未だ2期しかないが、コアカリは早くも医学部、歯学部のコアカリ改訂に合わせて2022年度中に再改訂され、2024年（令和6年）度入学生からの導入された。これに加えて、2017年度には「全ての大学等において三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表する」ものとする文部科学省・省令改正が施行され、2020年度には高大接続を重視した「学力の三要素」の的確な評価が求められる入試改革が始まり、さらに2020年2月に「大学がシステムとして確立した大学運営の在り方を示し、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組を促す契機とする」ことを目的に教学マネジメント指針が示されるなど、2016年度から2021年度までの第3期中期目標期間は、薬学にける教育研究において非常に大きな変革期となった。

「教学マネジメント指針」では、“学修成果・教育成果を最大化するためには教職員の能力向上が必要不可欠”であり、各大学はディプロマ・ポリシーに沿った学修者本位の教育を提供するために最適なFD・SDを組織的かつ体系的に実施していく必要があるとしている。FD・SDは、大学全体レベル、学位プログラムレベル、授業科目レベルで教育を改善する重要な活動と位置付けられており、言い換えれば、FD・SDは本事業の参画大学が“高度先導的薬剤師の養成”に向けて真摯に取り組み、高度化を図るべき重要な事案と言える。そこで、各参画大学のFD・SD活動についてアンケートを行い、下記の通り「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動」として、教学マネジメント指針におけるFD・SDの位置づけ、重要性に関する解説と共に、その結果を整理した。大学の教

育研究活動のポテンシャルを示す一つの指標とも言えるので、情報共有の上、本事業による“高度先導的薬剤師の養成”に向けた大学間連携によるFD・SD活動も視野に入れ、さらなる高度化を図りたいところである。

このような教育研究活動の変革が求める中で、国公立19大学は、2018年度に本事業に係る機能強化経費が基幹経費化され、本事業における取組や教育研究プログラムは各大学に定着し、継続的に実施される位置づけとなった。これを契機として、2019年に国公立大学薬学部長（科長・学長）会議のもとに国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会を設置し、薬学教育研究における諸課題に対する的確な対応、すなわち変革に堪えて教育研究活動の充実と高度化を達成するための方策の提言とその全国公立大学の連携による推進を図っているところである。本項では、最後に「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動」として、今後参画大学が国公立大学として本事業を背景に独自あるいは大学間連携によって取り組むべき教育研究活動、さらには今後推進すべき教育研究活動について、参画大学からの報告と寄せられた提言・意見をまとめた。

本項における報告事項は、以下の3点である。

1. 学部生及び大学院生の研究活動の成果
2. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動
3. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動

1. 学部生及び大学院生の研究活動の成果

年度末に調査を行った参画大学における2023年度の6年制学科学部生と4年制博士課程大学院生の学術論文発表数と学会発表数を下記の通りまとめた。学術論文については筆頭著者に限定せず、共著者となっている論文も含めた数であり、学会発表は、当該学生が発表者であるものと本人以外が発表者であるものを分けて記載した。

学生所属	査読のある学術論文 (筆頭著者・共著者)	学会発表（オンラインも含む）	
		本人が発表	本人以外が発表
学部	339	869	592
博士課程	223	372	207

2. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動

本事業に参画している国公立19大学においては、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づいて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師の養成に取り組んでいる。

2020年2月、中央教育審議会大学分科会は、教学マネジメントがシステムとして確立し

た大学運営の在り方を示すことにより、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組を促す契機とすることを目的として「教学マネジメント指針」をとりまとめた（「[教学マネジメント指針](https://mext.go.jp)」（mext.go.jp）、概要：図1）。この中で、教学マネジメントは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義でき、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みとされ、「教学マネジメント指針」の構造は以下のとおりとされている。

- I. 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
- II. 授業科目・教育課程の編成・実施
- III. 学修成果・教育成果の把握・可視化
- IV. 教学マネジメントを支える基盤
- V. 情報公表

このうち、「IV. 教学マネジメントを支える基盤」については、I～IIIの取組を実現する上で、FD及びSDを通じた教職員の能力の向上や教育改善活動、教学に関わる教学IRの進展が必要不可欠である、とされている。すなわち、FD・SD活動は、教学IRと共に、大学の学部教育、大学院教育の質を保証し、教育目的を達成するために欠かせないものと言える。

FDは学部及び大学院の設置基準において必須事項とされており、すでに各大学は大学として、また部局としてこれを実施しているところであるが、ここでは上記の教学マネジメントにおけるFDの重要性を鑑み、各大学で実施された本事業に関連する教育研究活動を含めた教育プログラムにおける《「三つの方針」を通じた学修目標の具体化》、《授業科目・教育課程の編成・実施》、《学修成果・教育成果の把握・可視化》等を支えるFD・SD活動について、参画大学から報告があった2024年（令和6年）度で開催されたものを以下にまとめた。これらは、各大学及び学部・大学院において継続的かつ発展的に実施されているものである。



図1 「教学マネジメント指針」・概要

(1) 実施したFD・SDの回数【2023年度】

		2024年度
北海道大学	部局開催	4
	大学開催	6
東北大学	部局開催	2
	大学開催	2
千葉大学	部局開催	12
	大学開催	18
東京大学	部局開催	0
	大学開催	1
富山大学	部局開催	1
	大学開催	2
金沢大学	部局開催	2
	大学開催	8
京都大学	部局開催	4

	大学開催	2
岡山大学	部局開催	6
	大学開催	1
広島大学	部局開催	2
	大学開催	
徳島大学	部局開催	5
	大学開催	0
九州大学	部局開催	3
	大学開催	56
長崎大学	部局開催	1
	大学開催	多数
熊本大学	部局開催	1
	大学開催	1
静岡県立大学	部局開催	1
	大学開催	7
名古屋市立大学	部局開催	11
	大学開催	3
岐阜薬科大学	部局開催	0
	大学開催	3
山口東京理科大学	部局開催	1
	大学開催	3
大阪大学	部局開催	3
	大学開催	

(2) 参画大学から報告があったFD・SD【2024年度】

		年度	テーマ	実施形態	対象	出席率
北海道大学	部局開催	2024	薬学の歴史と薬物治療のリスク管理	講演会	薬学研究院に所属する教員	66%
			薬学研究院研究発表会（夏季）	講演会＋討論	薬学研究院に所属する教員	64.2%
			薬学研究院研究発表会（冬季）	講演会＋討論	薬学研究院に所属する教員	81.1%
		2023	薬学の歴史と薬物治療のリスク管理	その他（授業である薬学概論「薬学の歴史と薬物治療の	薬学研究院に所属する教員	18.5%

	大学開催			リスク管理：サリドマイド被害者の立場から」をFD講習会を兼ねる形で実施		
			北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動	講演会	薬学研究院に所属する教員	27.8%
			薬学研究院研究発表会（夏季）	講演会+討論	薬学研究院に所属する教員	74.1%
			薬学研究院研究発表会（冬季）	講演会+討論	薬学研究院に所属する教員	79.6%
		2022				
			薬学の歴史と薬物治療のリスク管理	授業である薬学概論「薬学の歴史と薬物治療のリスク管理：サリドマイド被害者の立場から」をFD講習会を兼ねる形で実施	薬学研究院に所属する教員	30.5%
			ダイバーシティ推進のために必要な取り組み・姿勢とは	講演会	高等教育機関の教職員	不明
			薬学研究院研究発表会	講演会+討論	薬学研究院に所属する教員	76.3%
		2024	アイヌ民族との共生に向けた研修	講演会	北海道大学教職員	不明
			大学におけるハラスメント-実態と対応策について	講演会	北海道大学教職員	不明
			生成AIと教育研究活動	講演会	北海道大学教職員	不明
			ハラスメントを生まないコミュニケーションー“礼儀正しさ”をキーワードとしてー	講演会	北海道大学教職員	不明
			第41回北海道大学教育ワークショップ	講演会	北海道大学教職員	不明
		2023	アイヌ民族との共生に向けた研修	講演会	北海道大学教職員	不明
			研究と教育に薬に立つプロジェクトマネジメントスキル	講演会	北海道大学教職員	不明
			自閉スペクトラム症に関する学生及び教職員向け講演会	講演会	北海道大学教職員	不明
			大学職員のための業務用英会話集中研修	講演会	北海道大学教職員	不明
			今さら聞けない大学における合理的配慮の基本	講演会	北海道大学教職員	不明

			多様な学生を支える学内連携～よりよい支援のために～	講演会	北海道大学教職員	不明
			シラバスのブラッシュアップ研修	講演会	北海道大学教職員	不明
			Navigating the Next Wave: Preparing for the Future of Education	講演会	北海道大学教職員	不明
			発達障害のある方への就労支援	講演会	北海道大学教職員	不明
		2022	アイヌ民族との共生に向けた研修	講演会	北海道大学教職員	不明
			多様な学生を支える学内連携～よりよい支援のために～	講演会	北海道大学教職員	不明
			教育における異文化コミュニケーション	講演会	北海道大学教職員	不明
			オンライン授業の今後をどう展開するか～学生、教員アンケートの結果を基に考える～	講演会	北海道大学教職員	不明
			コロナ禍における北大生の現状	講演会	北海道大学教職員	不明
			画面越しのコミュニケーションにおける話し方	講演会	北海道大学教職員	不明
			受講生250名のハイブリッド授業の実践例	講演会	北海道大学教職員	不明
東北大学	部局開催	2024	ハラスメント防止対策FD	講演会	教職員	100%
			研究倫理に対するFD	講演会	教員・大学院生	100%
		2023	ハラスメント防止対策FD	講演会	教職員	100%
			研究倫理教育に対するFD	講演会	教員・大学院生等	100%
		2022	研究倫理教育に関するFD	講演会	薬学研究科教職員	100%
			令和4年度ハラスメント防止対策FD	講演会	薬学研究科教職員	100%
	大学開催	2024	研究不正使用防止コンプライアンス教育	講演会	大学院生等	100%
			情報セキュリティ・個人情報保護教育	講演会	教員等	100%
		2023	研究費不正使用防止コンプライアンス教育	講演会	教員等	100%
			情報セキュリティ・個人情報保護教育	講演会	教員等	100%
千葉大学			添付資料参照			
東京大	部局開	2023	研究倫理FD	その他	薬学部教職員・学生	教職員84名 学生62名
		2022	すべての学生の学びを支えるための学生相談機関の活用	講演会	教職員	79.7%

学	催					
	大学 開 催	2024	意思疎通がスムーズに進まない場面への対応の留意点	その他 オンライン講演	教職員	薬学部教職員79名
		2023	コミュニケーショントラブルの予防・対応	その他	薬学部教職員	教職員59名
富 山 大 学	部 局 開 催	2024	学部・セメスター制からクォーター制への移行によるメリットとデメリット ・富山大学薬学部の魅力向上策-地域からの入学者を増やすためには-大学院・博士後期課程短期修了制度の運用について ・学位取得の価値・魅力を学部生に伝達する方策	小グループ討論＋総合討論	薬学部及び和漢医薬学総合研究所の教員	86.8%
		2023	学部：・薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の対応について ・創薬科学科の魅力向上への取り組みについて 大学院：・大学院入学者数増加の方策について ・大学院生のキャリアサポートについて	小グループ討論＋総合討論	薬学部及び和漢医薬学総合研究所の教員	88.7%(薬学教員に限ったもの)
		2022	学部・学修ポートフォリオの導入について・コース分属と特別専門実習の実施について 大学院・大学院教育における異分野融合の促進について・大学院講義のあり方について	小グループ討論＋総合討論	薬学部、及び和漢医薬学総合研究所の教員	92%
	大 学 開 催	2024	第1回・生成AI 活用ワークショップ	講演会＋ワークショップ	薬学部教員に限る	1.1%
			第2回・学びを深める授業デザイン	講演会＋ワークショップ	薬学部教員に限る	0.3%
		2023	生成系AIの現状と教育への活用	講演会＋討論	本学教職員，非常勤講師，学生	3.9%（薬学部教員に限る）
			大人数・講義中心型授業におけるアクティブ・ラーニング	事例紹介＋全体質疑応答	本学教職員，非常勤講師，学生	9.8%（薬学部教員に限る）
		2022	自己省察を促し，主体的学習へ繋げる学修ポートフォリオの導入	講演会+他大学の事例紹介+機能紹介+意見交換	本学教職員，非常勤講師および学生	6%
			アフターコロナの大学教育のニューノーマル：教育の質の転換をめざして	質疑応答+交流座談会	教員（非常勤含む），職員，他大学教職員等	6%
金 沢 大	部 局 開	2024	Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research	講演会	教員	
			薬学系新任教員教務関連研修会	その他	薬学新任教員	100%

学	催	2023	薬学類のキャリア教育を考える	講演会+討論	教員	99%
			薬学系新任教員教務関連研修会	その他	薬学新任教員	100%
		2022	「予習復習用動画教材の作成とLMSへの掲載方法」 「ハラスメントの防止 - 行為者にならないために -」	講演会+討論	教員	99%
			薬学系新任教員教務関連研修会	研修会	薬学新任教員	100%
	大学開催	2024	令和6年度第1回全学FD研修会「新任教員説明会<教育・学生編>」	その他	新任教員	100%
			第2回全学FD研修会「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」	講演会+討論	教員	
			知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）採択校合同企画「未来思考型ワークショップ 2024（アイデアソン）～『知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）』が創造する大学教育の未来～」	講演会+討論	教員	
			第3回全学FD研修会「イシューベースラーニングのすすめ～課題解決力や実践力を鍛えるための授業設計～」	講演会+討論	教員	
			「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題」	講演会+討論	教員	
			第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー開催	講演会+討論	教員	
			「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ3 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2024『文理横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～』	講演会+討論	教員	
			令和6年度「文部科学省・知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）総括シンポジウム「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ ～DP事業が目指し、創り上げてきた成果～」	講演会+討論	教員	
		2023	新任教員説明会〈教育・学生編〉	その他	新任教員	100%
			分野を超えた専門知の組み合わせとは～Society 5.0における人材育成の姿～	講演会+討論会	教員	
			KU-DPアドバイザリーボード「実践インターンシップを通じた学びの成果発表と意見交換	講演会+討論会	教員	
			「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	講演会+討論会	教員	
			「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ4 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023「文理横断・文理融合	講演会+討論会	教員	

京 都 大 学	部 局 開 催		教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」			
			なぜ今、人文社会系大学院の改革・拡充なのか？	講演会+討論	教員	
			「令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」成果発信シンポジウム「STEAM教育を通じた高大院接続による人材育成エコシステムの構築を目指して」	講演会+討論	教員	
			未来創成教育環シンポジウム「教育現場のAI使用」	講演会+討論	教員	
		2022	新任教員説明会〈教育・学生編〉	研修会	新任教員	100%
			「ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現」	講演会+討論会	教員	
			「英語による授業担当者のためのFD研修会開催」	講演会+討論	教員	
			「令和4年度数理・データサイエンス・AI教育FD研修会」	研修会	教員	
			「金沢大学EMI 科目（英語による科目）の現状と今後の展望」	講演会+討論	教員	
			「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	講演会+討論	教員	
			「教学マネジメントセミナー2022『教学マネジメントのあるべき姿を考えよう！～自律的学修者を育てるために～』」	講演会+討論	教員	
		2024	授業評価アンケート報告(年2回開催)	小グループ討論	薬学部の講師以上	集計なし
			教員による授業評価	その他：講義見学・アンケート	薬学部の助教以上	51%
			新1回生グループ担任向けのガイダンス	小グループ討論	薬学部の専任教員	100%
			第7回薬学研究科Faculty Symposium	講演会	薬学部の教員・学生・研究員	集計なし
	2023		授業評価アンケート報告(年2回開催)	小グループ討論	薬学部の講師以上	集計なし
			卒業生アンケート結果報告	小グループ討論	薬学部の講師以上	集計なし
			授業アンケートで評価の高い授業の聴講	その他（授業聴講・意見交換）	薬学部の助教以上	88.9%
			DEI委員会	講演会+討論	薬学部の助教以上	71.1%
			新1回生グループ担任向けのガイダンス	小グループ討論	薬学部の専任教員	100%
			第6回薬学研究科Faculty Symposium	講演会	薬学部の教員・学生・研究員	集計なし
		2022	教員による授業評価	講義見学	薬学部の専任教員	75.5%
			第三回・第四回薬学研究科Faculty Symposium	講演会+討論	薬学部の教員、学生	集計なし

	大 学 開 催	2024	全学教育シンポジウム※2024年9月18日（水）実施	講演会+討論	教職員	集計なし
			新任教員教育セミナー	講演会+討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇任した教員	集計なし
		2023	全学教育シンポジウム	講演会+討論	教職員	集計なし
			新任教員教育セミナー	講演会+討論	京都大学に採用された新任教員および助教から昇任した教員	集計なし
		2022	全学教育シンポジウム「自律的課題発見・解決を通じて自立を促す少人数教養教育 もっとILASセミナーを」	講演会+討論	教職員	集計なし
	部 局 開 催	2024	国試対策ガイダンス	講演会+討論	薬学部教員・薬学部学生	26/38 (教員)
			第60回【課題探求科目説明会】	講演会+討論	薬学部教員	36/38
			第61回【CBT問題作成説明会】	講演会+討論	薬学部教員	38/38
			第62回【薬学教育評価再審査に係るFD研修会】	〔講演会+討論〕	薬学部教員	38/38
			担当授業の自己評価	〔その他〕 学生のアンケート結果を踏まえて、担当授業を自己評価する。	薬学部教員	14/38
			教員相互の授業見学	〔その他〕 薬学部の授業ライブラリの中から、他の教員の授業をオンデマンドで視聴し評価する。	薬学部教員	12/38
		2023	シラバス記述要領と新コアカリキュラムの説明	講演会+討論	薬学部教員	100%
			薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に関するシンポジウム	その他（オンデマンド視聴）	薬学部教員	64%
		2022	令和5年度からの大学院学位PGに関する教員向説明会	講演会	薬学部教員	34名
			6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム	講演会	薬学部教員	7名
			薬剤師養成教育の現状と展望	講演会	薬学部教員	27名

	大学 開 催		臨床と学部がつながるシュミレーション教育	講演会	薬学部教員	34名
		2024	桃太郎フォーラム2024 Target2025（教育改革）進捗報告会	講演会＋討論	大学教職員	（薬学部）8/38（事務）2名
		2023	令和4年度ティーチング・アワード表彰式	講演会	本学教職員＋学生	教員25名、職員10名、学生29名
			岡山大学桃太郎FD・SDフォーラム2023－主体的な学びにつながるコミュニケーション力の養成	講演会	本学教職員＋学生	教員19名、職員8名、学生10名、他大学職員3名、zoom参加者68名
		2022	令和4年度 実践FDオンライン研修会 「学生エンゲージメントを高める教育実践」	講演会	教職員	88名
			桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2022 「-探究力の育成をめざして-」	講演会	教員＋学生	74名
広島大学	部 局 開 催	2024	公共データベース上のトランスクリプトームデータの解析	講演会	薬学部教員	82%
			卒前医学教育の現状と展望～特にキャリア教育と行動科学について	講演会	薬学部教員	76.9%
		2023	防災訓練実施説明会	講演会	薬学部教員、薬学部学生、薬学部関係事務職員	80%
			研究不正防止講習	講演会	薬学部教員、薬学部学生、薬学部関係事務職員	95%
			薬学教育モデル・コア・カリキュラムを深める	講演会	薬学部教員、薬学部学生、薬学部関係事務職員	95%
		2022	防火・防災訓練実施説明会	講演会	薬学部教員、薬学部学生、薬学部関係事務職員	78.4%
			研究不正防止講習	講演会	薬学部教員、薬学部学生、大学院生	95%
徳島大	部 局 開	2024	薬学部教員FD研修会	その他【関係委員会委員長からの説明、質疑応答】	薬学部教員	97.3%

学	催		科研費勉強会（使い方と申請書作成法）	その他【関係委員会委員長からの説明、質疑応答】	薬学部教員	59.5%
			ハラスメントの予防について	講演会	薬学部教員	94.6%
			薬学部研究倫理プログラムワークショップ	小グループ討論＋総合討論	薬学部教員	29.7%
			新6年生課程における80人態勢での薬局・病院実務実習について	講演会+質疑応答	薬学部教員	89.2%
		2023	薬学部教員FD研修会	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員	94.4%
			科研費勉強会（使い方と申請書作成法）	関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員	75%
			薬学部研究倫理プログラムワークショップ	小グループ討論＋総合討論	薬学部教員	50%
			学生教育に関する研修会	講演会+質疑応答	薬学部教員	100%
		2022	薬学部教員FD研修会	その他：関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員	78%
			科研費勉強会	その他：関係委員会委員長からの説明、質疑応答	薬学部教員	69.8%
			薬学部研究倫理プログラムワークショップ	小グループ討論＋総合討論	薬学部教員	30.2%
			学生教育に関する研修会	講演会+質疑応答	薬学部教員	74.4%
			薬学部研究倫理プログラムワークショップ	エクセルファイルを用いて各自が実施し提出、アンケート実施	薬学部教員	30.2%
九州大学	部局開催	2024	第5回創薬産学官連携セミナー（新モダリティ）	講演会	教員	100%
			第6回創薬産学官連携セミナー（アカデミア創薬）	講演会	教員	91.38
			第7回創薬産学官連携セミナー（アカデミア創薬）	講演会	教員・学生	68.97%
		2023	馬出地区4部局合同男女共同参画FD	講演会	教員	82.76%

			第2回部局FD講演会「機関間連携」	講演会	教員	100%
		2022	学生の多様性に対応した教育とは：障害学生への合理的配慮を中心に	講演会+討論	薬学部教員	96.2%
			第4回創薬産学官連携セミナー（アカデミア創薬）	講演会+討論	薬学部教員	100%
長崎大学	部局開催	2024	長薬160周年に向けた特色ある教育活動について	講演会	教員	100%
		2023	適切なメンタリングによる学生の学業成果・進学意欲の向上	講演会	薬学部教員	97.8%
		2022	ハラスメントに関する意識・理解度を高める	オンライン講演会	薬学部教員	88.9%
熊本大学	部局開催	2024	令和6年度薬学部FD(学部教育関連)	講演会+討論	教職員	90%
		2023	学部教育関連FDに関して		教職員	不明
	大学開催	2024	高等教育における生成AI利用の課題と展望を考える	講演会	教職員	不明
		2023	学修者本位の教育に向けた反転授業の設計	Zoom開催	教職員	不明
		2022	学修成果可視化システムASOの更なる活用	Zoom開催	教職員	不明
静岡県立大学	部局開催	2024	臨床薬理学のミッションとは	講演会	全教員	未調査
		2023	授業をやめ臨床現場を経験すれば、学生は自ずから勉強する	講演会	全教員	78%
		2022	コーチング	講演会（zoom使用）	薬学部教員	100%
	大学開催	2024	創薬（導出）に繋がるアカデミアシーズを産むためには？	講演会	全教員	未調査
			キャンパス・ハラスメントはなぜ問題なのか	講演会	全教員	未調査
			大学における合理的配慮と修学支援	講演会	全教員	未調査
			アカデミック・ライティングの最前線	講演会	全教員	未調査
			AIの現状と教育への活用可能性	講演会	全教員	未調査
			知的財産セミナー「ライフサイエンス研究と特許」	講演会	全教員	未調査
			聴覚障害のある学生への理解と支援	講演会	全教員	未調査
		2023	ChatGPTの有用性と懸念点	講演会	全教員	不明
			あなたはAI時代を生き抜けますか？ 第1回：黒船襲来、第2回：子供の創造力×破壊力	講演会	全教員	不明
			金沢工業大学のSDGs最前線	講演会	全教員	不明
			聴覚障害のある学生への理解と支援	講演会	全教員	不明
			なぜ今の若者はそこまで目立つことを恐れるのか？「いい子症候群の若者たち」と共に前へ進むために」	講演会	全教員	不明
			未来を切り拓く力ー武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の起業		全教員	不明

			家庭教育についてー			
			AIが変える未来 “言語AIの進化とChatGPTの可能性”	講演会	全教員	不明
		2022	多様な性・生き方を尊重する社会の中で	講演会	教職員	
			研究活動と知財～大学研究者が特許出願するときのポイント～	講演会	教職員	
			大学における数理・データサイエンス・AI教育の重要性と食品栄養科学分野における教育体系	講演会	教職員	
			きこえない学生と情報保障	講演会	教職員	
			インターネット時代における大学の教育・研究と著作権法	講演会	教職員	
名古屋市立大学	部局開催	2024	研究授業による指導方法の改善	講義聴講と改善案の提案	教員全員	87%
			教務FD委員会	講演会+討論	教員	100%
			薬学部新任研修	講演会+討論	薬学部新任教員	100%
			東海地区の現在の実務実習の現状と課題	講演会+討論・小グループ討論+総合討論	臨床教育担当押印	100%
		2023	研究授業	その他ハイブリッド開催授業	薬学部教員	38名
			教務FD委員会	その他対面会議	薬学部教員	45名
			薬学部新任研修	その他 対面実施	新任教員	5名
		2022	研究授業	他の教員が行う講義を聴講する	教員	86%
			薬学部FD公開授業（薬学生と災害医療を考える）	講演会	教員・学生	21%【教員】
	大学開催	2024	大学設置基準と学生調査	講演会+討論	教員	不明
			教育改革フォーラム	講演会+討論	教員・大学院生・学部生	不明
			新任教員研修	講演会	新任教員	不明
		2023	新任教員研修「名市大教員に求められるもの」	講演会（zoom）	新任教員	86.1%
			教育改革フォーラム「生成AIの活用について」	講演会（zoom）	教職員・学生	53名
			FD・SD講演会「大学生の発達障害」	講演会（zoom）	教職員・学生	107名
		2022	教育改革フォーラム（令和5年度新カリキュラムについて）	講演会	教職員・TA	不明
			FD・SD講演会（多様化する障害学生の支援について）	講演会	教職員・TA	不明
岐大	大	2024	アントレプレナーシップをもって、踏み出そう	その他	教員・職員	94%（教員94%、

阜 薬 科 大 学	学 開 催					職員 93%)
			岐阜薬科大学の法人化に向けて	その他	教員・職員	97% (教 員96%、 職員 96%)
			大学におけるハラスメント及びその防止について	その他	教員・職員	88% (教 員92%、 職員 79%)
		2023	想いをカタチにするための「実現力講座」 mini	その他	教員・職員	80% (教 員89%、 職員 56%)
			障がいのある学生に対する支援の実際	その他	教員・職員	80% (教 員96%、 職員 36%)
			生成AI	その他	教員・職員	78% (教 員87%、 職員 52%)
			「ポートフォリオ」を理解し学びにつなげる評価へ	その他	教員・職員	77% (教 員96%、 職員 24%)
		2022	「こころのケア」を大切に（人権ハラスメント委員会との共催）	講演会（対面およびZoom）+座談会	教員・職員	約6割強
			公立大学法人制度及び高等教育政策について	講演会（対面およびZoom）+座談会	教員・職員	約6割強
和 歌 山 県 立 医 科 大 学	部 局 開 催	2023	配慮が必要な学生への理解と対応	講演会+討論	教職員（全員）	90%
			研究室配属学生を受け入れるにあたって	講演会+討論	教職員（全員）	90%
	大 学 開 催	2024	研究公正をめぐる現状と課題 ～ 最近の事例から	講演会	教職員（全員）	80%
			ハラスメントを考える～ストップ・パワハラ～	講演会	教職員（全員）	80%
			同和問題／障害のある人の人権	講演会+討論	教職員（全員）	100%
			科研費セミナー	講演会	若手教員	50%
		2023	科研費セミナー	講演会+討論	若手教員（教授 准教授・講師・助教）	50%
山 口 東 京	部 局 開 催	2024	東京理科大学薬学部合同とのFD研修会	講演会+討論	薬学部教員	54.5%
		2023	東京理科大学薬学部合同とのFD研修会	講演会+討論	薬学部教員	43%
		2022	東京理科大学薬学部合同でのFD研修会	講演会+討論	両大学の薬学部長、学	100%

理 科 大 学					科主任、大 学院幹事 長、両学科 担当教員等	
	大 学 開 催	2024	キャンパスハラスメントの予防について	講演会	全教職員	37.4%
			大学教育の意義を踏まえた教授法の実践	講演会	全教職員	43.5%
			AIツールとの付き合い方	小グループ 討論	全教職員	25.2%
		2023	ハラスメント防止	講演会	全教職員	32%
			教学マネジメント及び第三者評価の本質を理解する	講演会	全教職員	28%
			理系の大人数講義における効果的なAL手法	講演会	全教職員	42%
			教育DXの拡充について	講演会	全教職員	35%
		2022	ハラスメント防止について（教員と学生との距離の取り方）	講演会	全教職員	61%
			コロナ禍におけるモノづくりについて（DXを含む）	講演会	全教職員・ 全学生	28%
	大 阪 大 学	2024	自身の研究を社会実装する方法について	講演会	専任教員・ 寄附講座教 員・特任教 員・特任研 究員	不明
			研究成果をもっと活かすための知財戦略セミナー	講演会	専任教員・ 寄附講座教 員・特任教 員・特任研 究員	不明
			不登校と教職員の対応について	講演会	専任教員・ 寄附講座教 員・特任教 員・特任研 究員・事務 職員	不明
		2023	学生の心理、学生とのコミュニケーション	講演会（対 面+オンライ ン）	教職員	
		2022	事例から考えるハラスメント問題並びにその防止について	講演会（対 面+オンライ ン）	教職員+学生	
			情報セキュリティ・機密情報を守るために	オンライン	教職員+学生	
		大 学 開 催	2023	アフターコロナ時代の大阪大学における教育の質保証	講演会	教職員
			2022	ブレンデッド教育の現状とアフターコロナを見据えた展開	講演会（オ ンライン）	教職員

3. 学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動

第3期中期目標期間は、薬学にける教育研究において非常に大きな変革期であり、2015

年度入学生から導入された現行のコアカリに沿った薬学教育を実践しつつも、次期コアカリも視野に入れたカリキュラムの志向が求められ、また三つの方針の一貫性あるものとしての策定と実質化、入試における「学力の三要素」の的確な評価、教学マネジメントシステムの確立が求められている。

このような教育研究活動の変革が求める中で、国公立19大学は、2018年度に本事業に係る機能強化経費が基幹経費化されたことを契機に、本事業を基盤として、薬学教育研究における諸課題に対する的確な対応、すなわち変革に堪えて教育研究活動の充実と高度化を達成するための方策の提言とその全国公立大学の連携による推進を図ることを目的として、2019年に国公立大学薬学部長（科長・学長）会議のもとに国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会（検討委員会）が設置された。現在、早急な解決や的確な対応が求められる課題としては、

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方
- (2) 実務実習実施体制
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応
- (4) 第三者評価への対応
- (5) 共用試験の在り方
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方
- (7) 臨床研修制度
- (8) その他

があげられる。

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会 とりまとめ（提言概要）

令和3年6月30日公表

薬剤師の養成等

- 養成（入学定員、薬剤師確保）
 - ・ 将来的に薬剤師が過剰になると予想される状況下では、入学定員数の抑制も含め教育の質の向上に資する、適正な定員規模のあり方や仕組みなどを早急に検討し、対応策を実行すべき。
 - ・ 併せて、薬剤師の確保を含め、偏在を解消するための方策を検討することが重要であり、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべき。
 - ・ 今後も薬剤師の業務実態の把握、継続的な需給推計を行い、地域偏在等の課題への対応も含めた検討に活用すべき。
- 薬学教育（カリキュラム、教員、卒業までの対応）
 - ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しを検討する際には、本とりまとめの今後の薬剤師が目指す姿を踏まえたカリキュラムとすべき。
 - ・ カリキュラムは、臨床に関する内容、在宅医療への対応のための介護分野の内容、OTCの対応や健康サポート機能への取組により地域住民の健康増進を進めるための内容、感染症や治療薬・ワクチンに係る内容、コミュニケーション能力に係る内容についても、さらに充実すべき。
 - ・ 研究能力を持つ薬剤師の育成も重要であり、国家試験対策中心の学習に偏重することなく、6年間を通じた研究のカリキュラムを維持すべき。
 - ・ カリキュラムを踏まえた教育に対応できる教員の養成と質の向上が重要である。最新の臨床現場の理解と研究能力を有することが必要である。
 - ・ 修学状況（進級率、標準修業年限内での国家試験合格率など）等の課題を有する大学が存在する状況を改善するため、これらの情報の適切な公表、薬学教育評価機構による第三者評価結果の効果的な活用、評価結果のわかりやすい公表等を行うべき。
- 国家試験
 - ・ 定期的に合格基準・出題基準の見直し要否の検討を医道審議会で行うべき。
 - ・ 国家試験の基礎科目は薬学共用試験のCBT（知識を問う問題）の充実により軽減し、臨床に関する問題を中心とすることを検討すべき。

薬剤師の業務・資質向上

- 薬局及び医療機関の薬剤師の業務（調剤業務、ICT対応）
 - ・ 対人業務の充実と対物業務の効率化のためには、薬剤師しかできない業務に取り組むべきであり、それ以外の業務は機器の導入や薬剤師以外の者による対応等を更に進めるため、医療安全の確保を前提に見直しを検討することが必要である。（本検討会で引き続き検討）
 - ・ 電子処方箋や電子版お薬手帳等のICT化による情報共有、薬局・医療機関等の間での連携方策に取り組むべき。
- 薬剤師の資質向上（卒後研修、生涯研修・専門性）
 - ・ 臨床実践能力の担保のためには、薬学教育での実習・学習に加えて、免許取得直後の臨床での研修が重要であり、卒前（実務実習）・卒後で一貫した検討が必要である。研修制度の実現に向けて、卒前の実務実習との関係性を含め、研修プログラムや実施体制等について検討すべき。
 - ・ 生涯研修として薬剤師認定制度認証機構（CPC）の認証を受けた研修機関が実施する研修を活用すべき。
 - ・ 学会等で行われている薬剤師の専門性の認定に関しては、第三者による確認など、認定の質の確保について検討が望まれる。

図2 「厚生労働省薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめ・概要

これらの課題については、すでに参画大学はそれぞれ、あるいは大学間の協働、さらには全大学の連携によって解決や的確な対応に受けて取り組んでおり、その状況や成果については別項で報告するところである。

本項では、こういった課題を中心に、それぞれ解決や対応に向けて今後国公立大学において本事業を中心にどのような教育研究活動を行うべきかについて、2022年度に参画大学から出された意見や提言をまとめた。

なお、上記の通り参画大学から出された本項の意見、提言の多くは、2021年6月に公表された「厚生労働省薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめ・概要

(図2)の「薬剤師の養成等・薬学教育(カリキュラム、教員、卒業までの対応)」の内容と一致するものであり、2019年から開始した検討委員会におけるこのような課題に対する解決策や対応策の検討、ひいては国公立大学におけるあるべき教育研究活動の追求は、社会や医療現場からの6年制薬学教育に対する要求を先取りしたものと言える。

【薬学6年制教育研究にける課題とその解決・的確な対応に向けた意見・提言】

- 学部・大学院における制度改革、育研究体制・教育課程・教育研究プログラムの整備
 - ・ 国公立大学は、薬剤師養成を目指す私学とは異なる教育・研究のあり方を確立すべきである。
 - ・ 薬学科2コースの設置を進めるべきである。
 - ・ 教育内容が臨床に偏り、基礎薬学が疎かになる傾向があるのではないかと。6年制薬学出身者には、臨床・基礎などを問わず様々な医療に関わる場所での活躍が求められる。その中で、全ての基本となる基礎薬学の充実も必要であると考え。
 - ・ 6年制薬学教育では、臨床実務に関する教育のウェイトが増えてきている。そのこと自体は問題ないが、近年の薬学教育に関する議論では『大学教育のみではなく卒後教育も含めた総合的な薬剤師教育の中で大学教育は何をすべきか?』という観点が少し薄いように感じる。薬剤師の臨床業務は益々高度化、広範化していくことが予想されるが、それらすべてを大学教育に取り入れることは総合的な薬剤師教育の観点からは不合理と思われる。生涯学習も含めた薬剤師教育やキャリアプランを明確にした上で、そのプロセスの中で『大学がその特徴を活かして最も効率よく教育できる内容』を優先的に大学で教育するといった議論が必要である。その過程で卒後研修なども議論されるべきかと考える。
 - ・ 国公立は税金で維持されている教育機関であり、私立大学とは異なる視点での国家・国民への貢献を考え、推進するべきと考える。
 - ・ 薬剤師養成を目指す私学とは異なる教育・研究のあり方を確立できると良い。
 - ・ 国公立大学薬学部が多くが附属病院を持つことから、それらの利点を生かしたプログラムを組むことが望まれる。

○ 国公立大学の使命としての薬学研究の充実、優れた研究者の育成

- ・国公立大学の役割として「将来の薬学を牽引する人材を輩出する」という重要な役割があると考え。そのために、研究マインドの醸成、その延長線上として博士課程進学者増をはかる必要性を強く感じる。
- ・国公立大学間で研究発表や研究セミナー等の学生交流の場を設けて研究に対する意識を高めることが有効である。

○ モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方〔上記課題(1)〕

- ・コアカリ改訂を受けて、国公立大学薬学部・薬学研究科は、これからの薬剤師ならびに薬学を牽引する優秀な人材育成を大目標に教育の進め方を再度見直す必要がある。
 - 1) 薬学基礎科目と臨床系の科目が連携して教育を進められる新しい授業体系の検討。
 - 2) 講義中心の授業から、課題解決型能力開向上を目指す新しい授業を積極的に取り入れる。
 - 3) 6年制薬学部に適した研究体制をさらに充実させて、卒業研究のテーマや実施機関の選択肢を広げ、科学的な課題解決が可能な人材育成をさらに強化する。
 - 4) 国公立大学の恵まれた教育環境を活かして、学部横断的あるいは地域連携によるレベルの高い臨床薬学教育を率先して開発し実践することは義務だと考える。
 - 5) 学部・大学院・社会と一連の魅力的なキャリアプランを複数提示し、そのキャリアプランをサポートするような教育コース等を大学・大学院に準備することは国公立大学が率先して開拓して行く必要がある。
- ・大学独自の教育がより実践できる体制作りを希望する。
- ・医学教育モデルコアカリキュラムを参考に、薬学教育モデルコアカリキュラムをスリム化する。特に、令和4年度改訂版のモデル・コアでも臨床薬学が理想を追いすぎているため、卒前教育にふさわしい内容への改編が必要である。
- ・コアカリや教育評価における卒業研究の軽視傾向に対し、国公立大の学生にとっては研究活動が重要な人材育成の場であることが明示できるように改善を求める必要がある。
- ・各大学の独自性の在り方について検討を進めるべきである。

○ 実務実習実施体制〔上記課題(3)〕

- ・各大学が、自大学のミッションに沿った薬剤師、研究者、大学教員の養成を図り、社会に貢献することが肝要である。そのためにも、例えば病院と薬局での柔軟な実務実習期間の設定、臨床研究を含むコアカリ以外の実務実習の導入などの実務実習をはじめ、各大学の裁量に任せた教育の推進が必要であると考え。
- ・大学の独自性、特に国公立大学の物的・人的リソースを活用した実務実習の体制整備、実施が求められる。
- ・国公立大学の恵まれた教育環境を活かして、学部横断的あるいは地域連携によるレ

ベルの高い臨床薬学教育を率先して開発し実践することは義務だと考える。

- ・それぞれの大学のディプロマ・ポリシーにあった実務実習が行えるように実習期間やカリキュラム等について柔軟性を持たせる必要がある。
- ・実習期間の見直しを行う必要がある（全体の期間及び薬局と病院の配分など）。
- ・薬剤師免許はとるが薬剤師として働かない学生も多い。そういった学生の実務実習は体験型ではなく見学型として、将来薬剤師として働く場合は研修を受けるといった制度とすべきである。
- ・学生の機会損失の防止を目的とした、実務実習受け入れに関する全国統一したルール化の整備（ふるさと実習の受け入れ等）の検討が必要である。

○ 第三者評価への対応〔上記課題(4)〕

- ・機関別認証評価との重複をなくし、簡略化する必要がある。
- ・第三者評価の内容が細かく、また教員が費やすエネルギーも大きいことから、内容の改善を求めたい。

○ 共用試験の在り方〔上記課題(5)〕

- ・薬学共用試験の実施体制、内容の見直しが必要である。
- ・共用試験OSCEの課題数が増加し、在宅医療など範囲も広がっていることは、社会的ニーズを考えると妥当と思われるが、それであれば機械やAIが担当可能となっている調剤（特に薬包紙での分包など）の項目を減じるなどの対応が望まれる。薬剤師の職能が広がるのは良いことであるが、6年間の限定された教育期間ですべきことには限度があることから、優先すべき事柄を整理して欲しい。
- ・OSCEをもう少し簡素化できないか。厳正に行うことは重要だが、各大学によって環境等も異なることから状況に応じた対応ができるようすれば負担が減るのではないか。
- ・各大学の科目の単位認定にまかせるという議論があってもいいのではないか。

○ 大学院博士課程における教育研究の在り方〔上記課題(6)〕

- ・国公立大学の役割として「将来の薬学を牽引する人材を輩出する」という重要な役割があると考え。そのために、研究マインドの醸成、その延長線上として博士課程進学者増をはかる必要性を強く感じる。
- ・薬学の教育研究に指導的な立場で貢献できる薬学研究者（博士号取得者）の育成をより実践できる体制作りが必要である。
- ・個々の大学だけでなく、国公立大学間の連携、国公立大学附属病薬剤部との連携、国公立研究機関との連携によって、博士課程修了後のキャリアの多様性（職種、地域、キャリアパス）を確保することが有用である。
- ・経済的支援制度（公的奨学金、大学独自の支援）の充実が必要である。
- ・博士課程（大学院）進学率の向上に対する対策や体制の構築が必要である。

Ⅲ. 事業のまとめと今後の展望

1. 事業のまとめ

(1) 事業の実施概要

本事業では、大学間連携を基本としながら、以下のとおり各取組の連携による開発・実施及び展開を行った。

基幹となる「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」に、「国際医療薬学教育研究推進プログラム」、「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」、「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」及び「地域医療教育研究推進プログラム」を加えた主な5つの教育研究プログラムについて、参画大学の連携による開発・実施を行った。

大阪大学では、主幹校として参画大学におけるこれらの取組の運営を総括するとともに、5つの教育研究プログラムの一環として、参画大学間の連携・協働のもと、「主幹校企画シンポジウム」、「合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ」及び「学生自主研修プログラム」を企画・実施した。また、大阪大学独自の教育研究資源を活用した教育研究プログラムの開発・実施を行った。これらについてはⅡ-4として報告した。さらに、Ⅱ-5として、「大阪大学 OU マスタープラン 2027 に特に貢献した教育研究活動に関する報告」をまとめた。

これに加えて、各参画大学では、これら5プログラムを基盤として発展的に企画・実施した教育研究活動として、「地域における他大学、病院・薬局、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携による取組」、「卒業生・修了生との連携による教育研究活動」、「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂への対応及び教育の質向上を目的とした独自の教育研究活動」、さらには「大学院博士課程進学促進に向けた教育研究活動」等を展開した。これらについてはⅡ-3「主な5プログラム以外の教育研究活動に関する成果報告」としてまとめた。

さらに、Ⅱ-6「国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラムの在り方について」において、「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動」及び「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動」として、参画大学の取組・活動について整理・報告した。

本事業における教育研究プログラムの開発・実施については、大学間連携を基本としながらも、各大学がそれぞれの教育研究上の特色、地域性及び人的・物的資源を活用し、独自性と自由度を持って推進する形式を継続した。これにより、各大学の教育理念、教育研究上の目的及び三つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）に基づいた、多様で特色ある教育研究プログラムの展開を図ることができた。

(2) 事業の成果

実施した取組の成果については、「Ⅱ. 事業成果報告」で報告したとおりである。

2024年度は、オンラインで蓄積した教育研究手法と対面活動を融合した「新たなハイブリッド型教育研究体制」が完全に定着し、さらなる高度化と安定的な運用へと移行した年度であった。本事業

においても、大学間連携を強固な基盤としながら教育研究活動の継続的な質の向上が進められ、当初計画した取組をすべて円滑に実施し、多大な成果をあげることができた。

主な5つの教育研究プログラムにおける具体的な成果は以下のとおりである。

対象教育研究プログラム	2024 年度の主な成果・取組実績
1) 高度医療人キャリア形成 教育研究推進プログラム (基幹的取組)	大学院進学促進及び薬剤師博士人材育成を最重要課題として継続展開。「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」等を通じた課題共有とキャリア支援がさらに洗練された。学生・大学院生の研究・キャリア形成活動を包括的に支援し、研究能力と高度な臨床実践能力を兼ね備えた先導的薬剤師の育成を強固に推進した。
2) 国際医療薬学教育研究推進 プログラム ／グローバル健康環境 教育研究推進プログラム	海外交流・連携体制が完全に定着。「海外学生自主研修プログラム」や「国際共同教育活動」を円滑に実施した。従来の双方向派遣・受入型教育に加え、安定的に運用されているオンライン共同教育のインフラも有機的に融合させ、多様な国際視野をもつ質の高い薬学人材の輩出に貢献した。
3) 地域薬学人材養成教育拠点 形成プログラム ／地域医療教育研究推進 プログラム	地域偏在、在宅医療、地域包括ケア、さらに医療 DX の深化に対応した高度教育を各大学で推進。地域医療の現場実践教育に、情報通信技術 (ICT) や最新の遠隔教育手法を掛け合わせた先進的なハイブリッド学習環境を構築し、地域社会の要請に応える次世代の薬学教育基盤を確固たるものとした。
4) 全体の検証と今後の課題	開発した各プログラムの深化と安定的な共同運用を継続する。蓄積された優れた教育モデルを参画大学内にとどめず、広く日本の薬学教育全体の質向上へ波及・展開させることが強く期待される。今後は、多角的な教育効果検証とさらなるブラッシュアップを行い、先進的な情報発信を積極的に行う。

大阪大学が実施した教育研究活動については、Ⅱ-4 で報告したとおり、主幹校として大学間連携による教育研究活動の企画・運営を統括し、またⅡ-5 で報告したとおり、「OU マスタープラン 2027」の実現に確実に資する教育研究活動として着実に展開した。

また、「国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラムの在り方について」では、FD・SD 活動及び今後推進すべき教育研究活動について体系的に整理した。教育の質保証、教学マネジメント、研究能力の向上、教育 DX 等への対応を含め、参画大学において教育研究活動の継続的な改善・高度化が図られている。

2. 事業の今後の展望

今後の事業展開として、これまで参画大学の密接な連携によって開発・実施してきた教育研究プログラムのさらなる充実・発展及び普及を図る。これにより、現在及び将来の急激な医療環境の変化に柔軟に対応し、先進医療、創薬研究、高度保健衛生分野を先導的に主導できる「高度先導的薬剤師」の養成と、そのグローバルな活躍の支援・推進を目指す。

■ 今後の重点推進事項

・「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」

国公立大学薬学 6 年制教育研究検討委員会において最重要課題とされている「大学院博士課程進学促進」及び「薬剤師博士人材育成」を最重点事項とし、卓越した研究力と実践力を兼ね備えた高度先導的薬剤師養成を推進する。

・「国際医療薬学教育研究推進プログラム」及び「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」

対面での密な交流とオンライン教育を効果的に組み合わせた新たな国際教育モデルを発展させ、国際舞台で活躍できる高度先導的薬剤師養成を推進する。

・地域医療への対応と高度化

薬剤師の地域偏在問題や地域医療の高度化に対応するため、地域医療 DX 教育、遠隔教育、多職種連携(IPE)教育等を強力に推進し、地域社会に真に貢献できる薬剤師養成モデルの高度化を図る。

大阪大学は、「生きがいを育む社会」を創造する大学として、2022 年(令和 4 年)から始まる第 4 期中期目標期間に加え、さらにその先も見据えた中長期的な経営ビジョンである「OU(Osaka University)マスタートプラン 2027」を掲げている。この中で「教育基盤: 知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境の整備」、「研究基盤: 自由な発想が芽吹く研究環境の構築」、「コロナ新時代に対応する情報基盤整備」、さらには「グローバル戦略: 世界規模の課題に立ち向かうグローバル人材の育成と学術研究の推進」を包括的に進めている。上記のような基幹経費化された第 4 期中期目標期間における本事業は、まさにこういった大阪大学の目標到達に向けた、教育研究における具体的な取組を具現化するものである。

すなわち、国公立大学が担うべき薬学領域、および医療における社会的な責任を深く自覚し、社会とともに歩み、活力ある社会を創出するためのイノベーションを担う人材である“高度先導的薬剤

師”の養成や新たな価値の創成を通して、「社会を創造」する大阪大学がグローバル社会の求める
負託に応えるための極めて重要な事業と言える。